

第 11 回
豊川市市民意識調査報告書

【概要版】

平成 27 年 8 月

豊 川 市

はじめに

豊川市では、第5次総合計画に基づき「光と緑に映え、ゆたかで、住みよい、夢のあるまち」の実現を目指して、都市機能や産業基盤の整備、教育・文化・福祉の充実に努めています。今後も、合併により拡大した市域の一体感を醸成し、個性的で魅力あるまちづくりを進めていくには、皆様のご意見を積極的にお伺いすることが重要であると考えております。

そこで、市民の皆様に、市のこれまでの取り組みに対する評価をいただき、現在の生活環境や今後のまちづくりについてのご意見等をお聴きするため、「第11回豊川市市民意識調査」を実施しました。

このたび、調査結果がまとまりましたのでここに公表するとともに、いただいた貴重なご意見については、市民の皆様にご満足していただける市政の実現に向けて、活用してまいります。

最後に、ご多用の中、本調査にご協力いただきました多くの市民の皆様にご心から御礼申し上げます。

平成27年8月

豊川市長 山 脇 実

I 調査概要

1 調査対象及び調査方法

- | | |
|---------|-------------------|
| ①調査地域 | ・豊川市全域 |
| ②調査対象者 | ・豊川市に在住する20歳以上の男女 |
| ③標本数 | ・5,000人 |
| ④標本抽出方法 | ・住民基本台帳等による無作為抽出 |
| ⑤調査期間 | ・平成27年5月1日から15日まで |
| ⑥調査方法 | ・郵送配布、郵送回収 |

2 調査票の回収状況

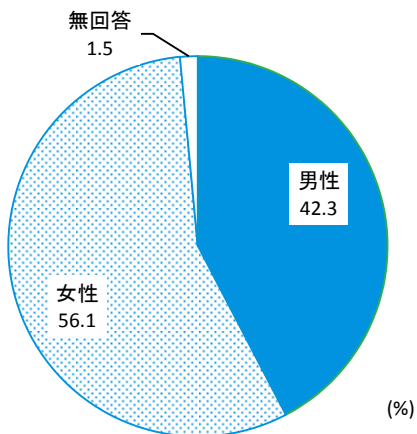
有効配布数	4,987件	配布数	5,000件
有効回収数	2,711件	回収数	2,719件
回収率	54.4%		

3 報告書の見方

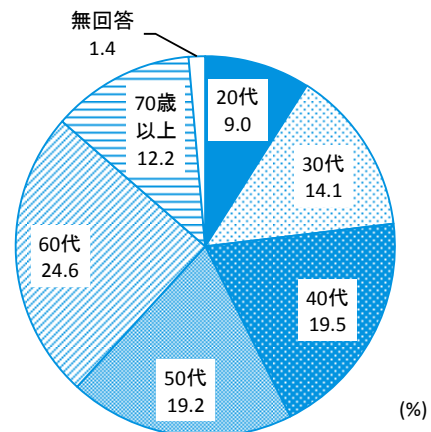
- ・グラフ・表中の「n」はアンケートの回収数を示している。
- ・比率はすべて百分率(%)で表し、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、合計が100.0%にならない場合もある。
- ・複数回答の場合、回答の合計比率が100.0%を超える場合がある。
- ・グラフ・表として示したもののうち、回答数が0の場合は表示を省略している。また、選択肢が無い場合に該当する数値が無い場合は※印で表示している。
- ・グラフ・表や文中において、選択肢の文章を簡略化してある場合がある。

Ⅱ 回答者の属性

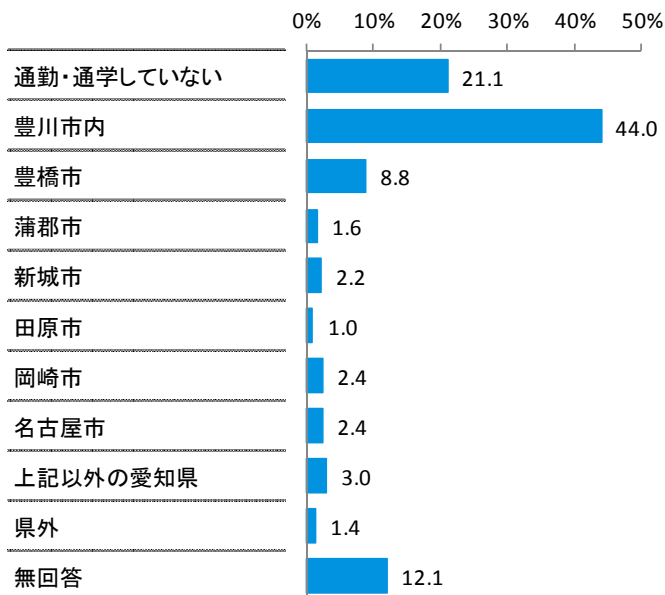
図表 1 性別



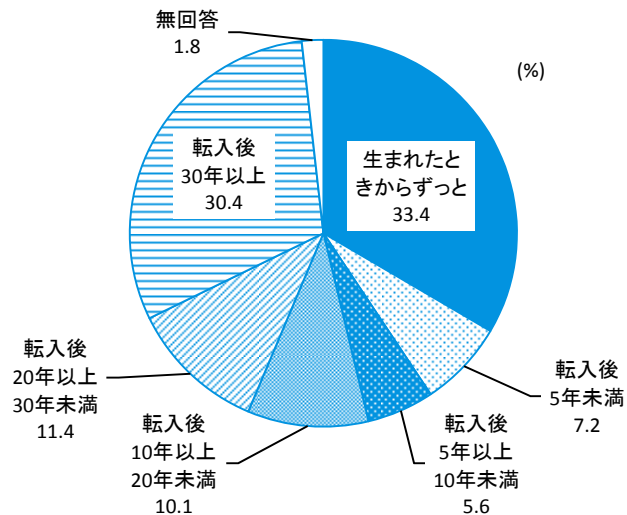
図表 2 年齢



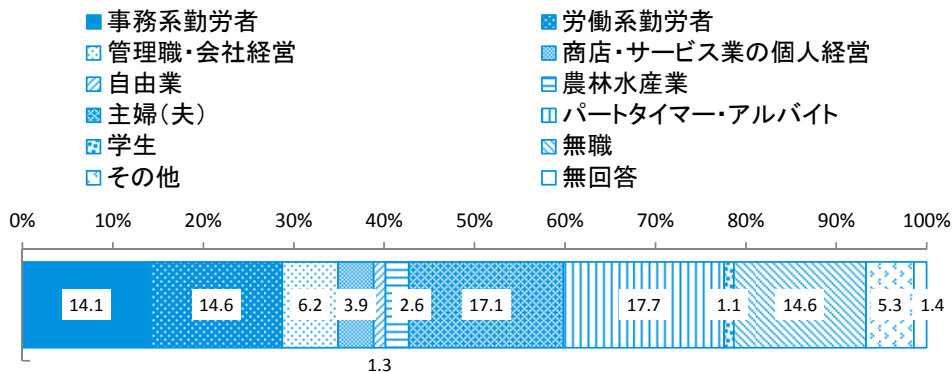
図表 3 通勤・通学先



図表 4 居住年数



図表 5 職業



Ⅲ 調査の分析

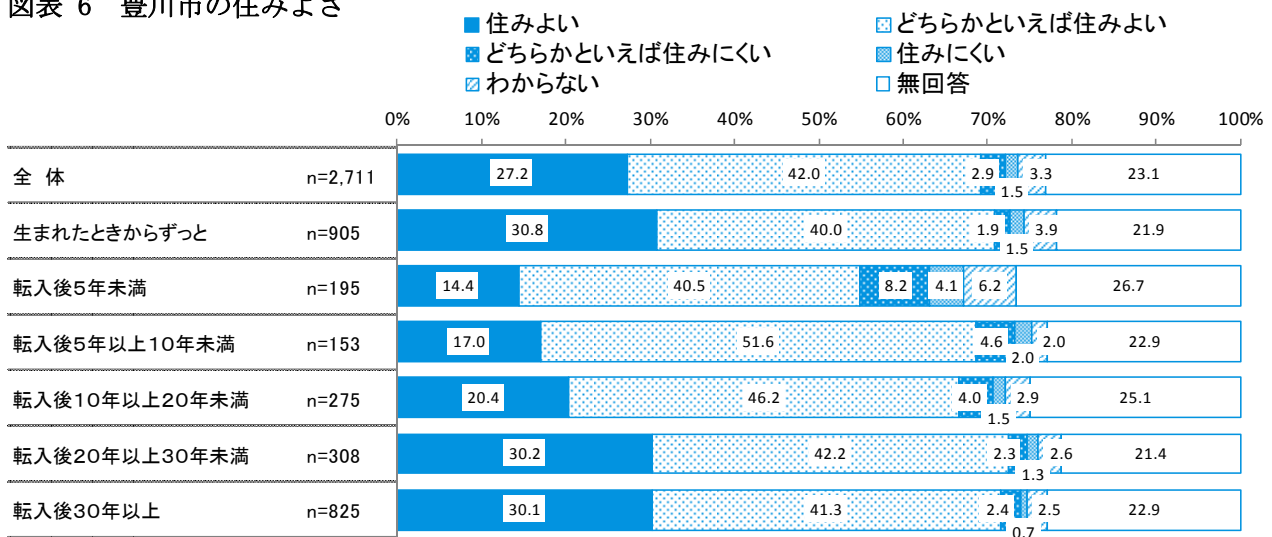
1 市全体の生活環境

1 豊川市の住みよさ

◆ “住みよい”が69.2%、“住みにくい”が4.4%

豊川市の住みよさについては、「どちらかといえば住みよい」（42.0％）の割合が最も高く、次いで「住みよい」（27.2％）となっており、この2つをあわせた“住みよい”は69.2％となっている。一方、「どちらかといえば住みにくい」（2.9％）と「住みにくい」（1.5％）をあわせた“住みにくい”は4.4％となっている。【図表 6】

図表 6 豊川市の住みよさ

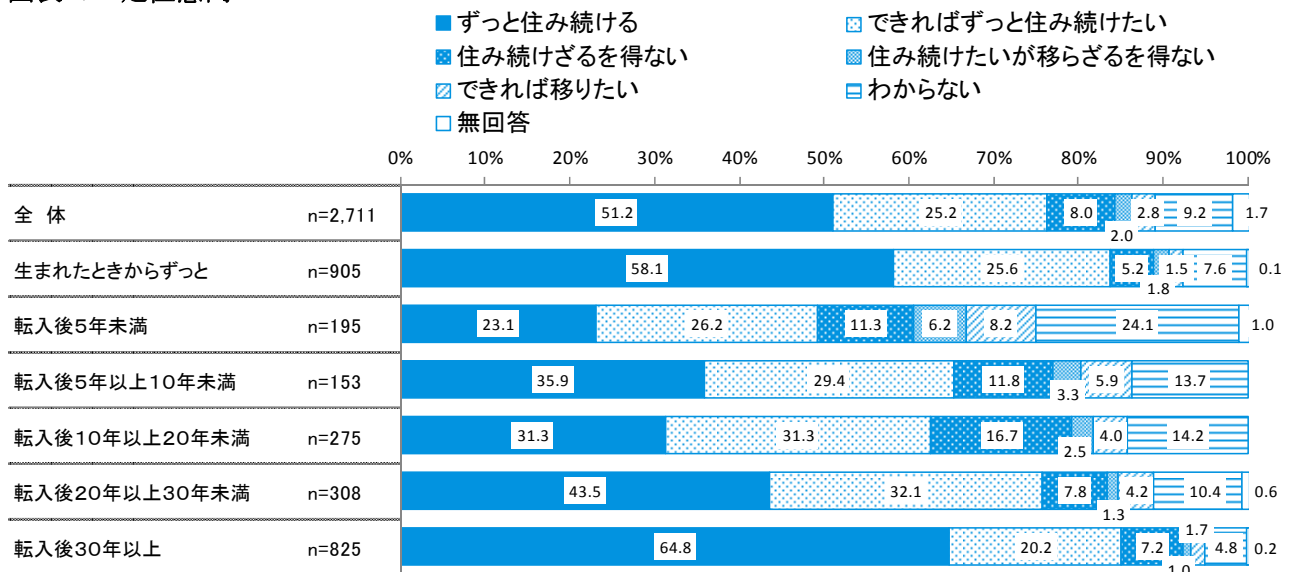


2 定住意向

◆ 「ずっと住み続ける」が51.2%、「できればずっと住み続けたい」が25.2%

定住意向について、「ずっと住み続ける」（51.2％）の割合が最も高く、次いで「できればずっと住み続けたい」（25.2％）、「わからない」（9.2％）の順となっている。【図表 7】

図表 7 定住意向



2 豊川市の市政の評価

1 満足度の評価

(1) 全体評価

豊川市の市政における現状の満足度について、「安全・安心」「健康・福祉」「建設・整備」「教育・文化」「産業・雇用」「地域・行政」の6分野49項目に対して、「満足」を+2点、「まあ満足」を+1点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点、「わからない」を0点として項目ごとに評価点を算出した。その結果、豊川市全体では、市政の満足度の平均値は0.15となっており、前回の0.18から0.03ポイント減少している。【図表8】

◆ 満足度がプラス評価の項目が35項目、マイナス評価の項目が14項目。

項目別にみると、満足度がプラス（0以上）になっている項目は合計35項目あり、満足度の高い項目から順に「水道水の安全・安定供給」（1.05）、「緑・自然の豊かさ」（0.78）、「ごみ処理対策」（0.65）、「消防体制」（0.56）、「生活における衛生環境」（0.56）となっている。

一方、満足度がマイナスになっている項目は、合計14項目あり、満足度の低い項目から順に「歩行者にとっての道路の安全性」（-0.42）、「中心市街地の活性化」（-0.32）、「雇用の安定・勤労者支援」（-0.23）、「公共交通機関の利便性」（-0.18）、「職員の定員適正化」（-0.15）となっている。【図表8】

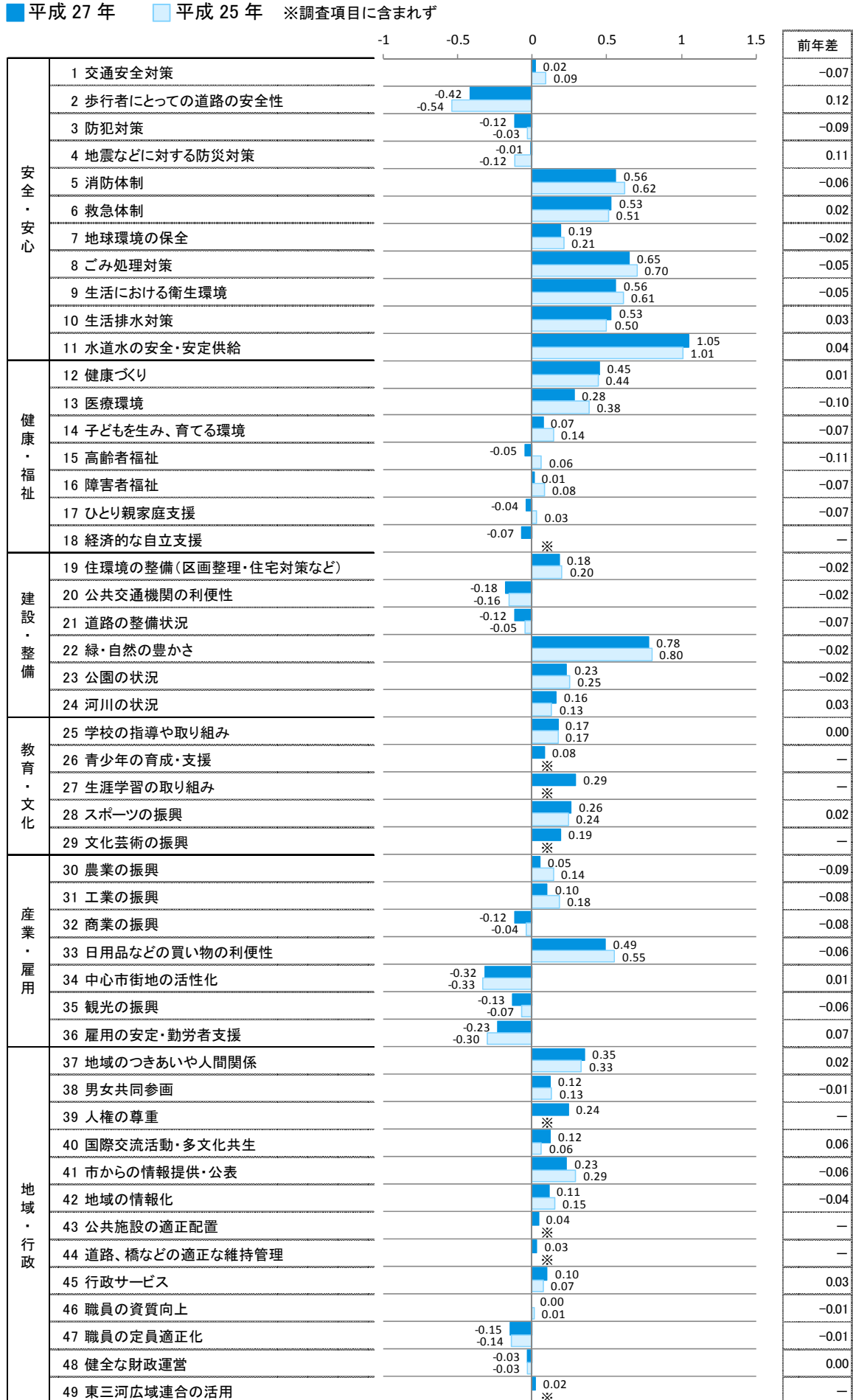
◆ 前回より評価点が高くなった項目が13項目、低くなった項目が26項目。

前回調査より満足度の評価点が高くなった項目は13項目となっている（新設項目のうちプラスとなった7項目を除く）。特に「歩行者にとっての道路の安全性」が0.12ポイント高くなっており、次いで「地震などに対する防災対策」が0.11ポイント、「雇用の安定・勤労者支援」が0.07ポイント、「国際交流活動・多文化共生」が0.06ポイント、「水道水の安全・安定供給」が0.04ポイント高くなっている。

一方、前回調査より満足度の評価点が低くなった項目は26項目（新設項目のうちマイナスとなった1項目を除く）で、「高齢者福祉」が0.11ポイント、「医療環境」が0.10ポイント、「防犯対策」が0.09ポイント、「農業の振興」が0.09ポイント低くなっている。【図表8】

※「生活排水対策」、「雇用の安定・勤労者支援」、「国際交流活動・多文化共生」は、前回それぞれ「排水対策（下水道整備など）」、「雇用の安定・勤労者福祉」、「国際交流活動」と表記。また、「歩行者にとっての道路の安全性」は前回「建設・整備」分野の項目、「国際交流活動・多文化共生」は前回「産業・交流」分野の項目。

図表 8 市政に対する満足度の評価点



2 重要度の評価

(1) 全体評価

豊川市の今後の市政を進めるにあたっての重要度を、「安全・安心」「健康・福祉」「建設・整備」「教育・文化」「産業・雇用」「地域・行政」の6分野49項目に対して、「非常に重要」を+2点、「やや重要」を+1点、「さほど重要でない」を-1点、「重要でない」を-2点、「わからない」を0点として項目ごとに評価点を算出した。その結果、豊川市全体では、市政の重要度の平均値は0.88となっており、最大値は1.46、最小値は0.24であった。【図表 10】

◆ **重要度の評価点が1.00以上の項目が18項目、1.00未満の項目が31項目。**

分野別にみると、「安全・安心」分野（1.26）での重要度が高くなっている。【図表 9】

項目別にみると、「歩行者にとっての道路の安全性」と「地震などに対する防災対策」（ともに1.46）で重要度が最も高くなっており、次いで「救急体制」（1.45）、「医療環境」（1.42）、「交通安全対策」（1.40）、「水道水の安全・安定供給」（1.36）の順となっており、上位3項目はいずれも安全・安心分野の項目となっている。【図表 10】

◆ **前回より評価点が高くなった項目が2項目、低くなった項目が39項目。**

前回調査より重要度が高くなった項目は2項目となっており、「歩行者にとっての道路の安全性」が0.06ポイント増、「国際交流活動・多文化共生」が0.03ポイント増となっている。

一方、前回調査より重要度が低くなった項目は39項目で、「防犯対策」（-0.28）、「交通安全対策」（-0.22）、「生活における衛生環境」・「住環境の整備」（ともに-0.20）で0.2ポイント以上の減少がみられた。

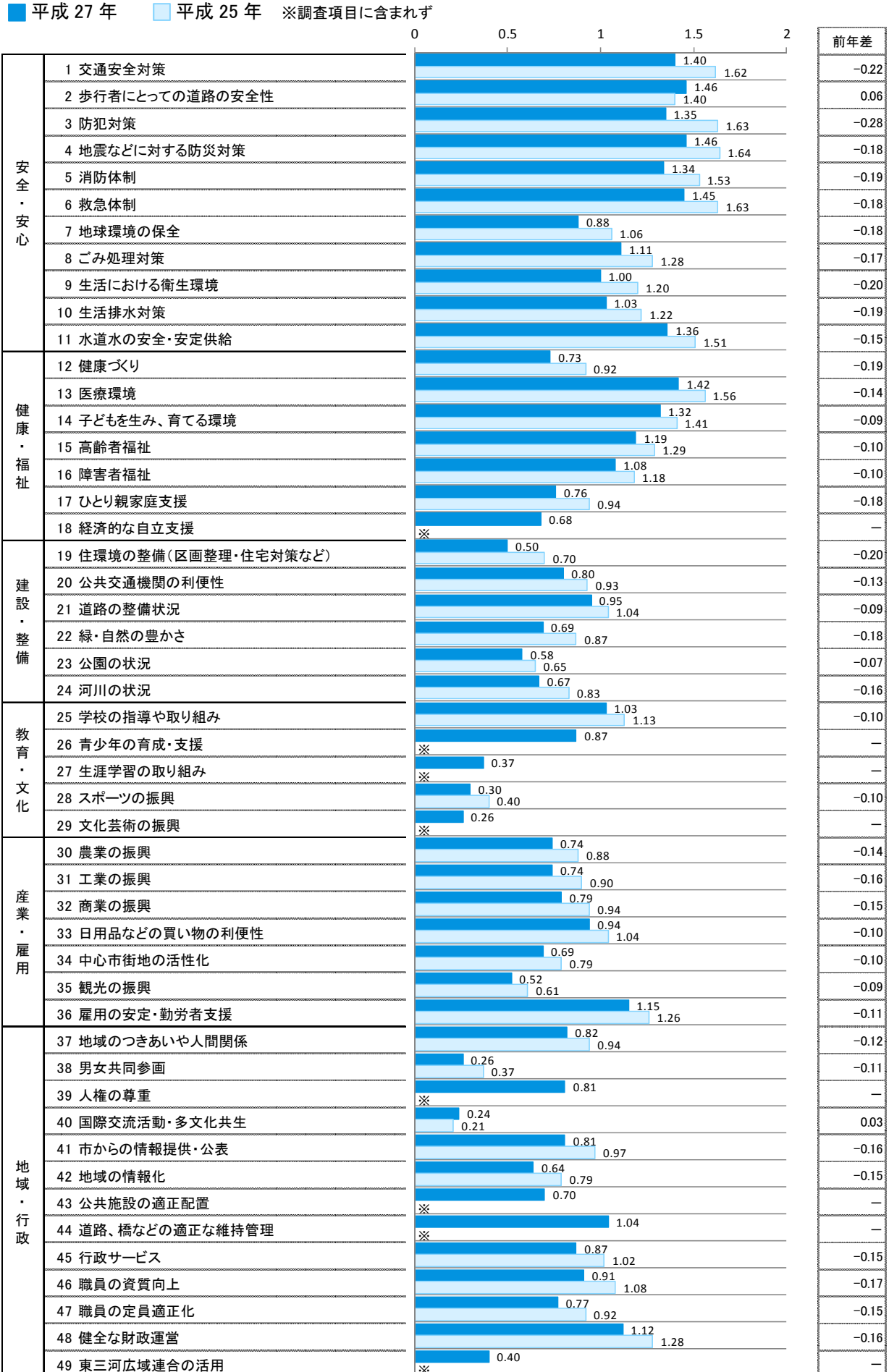
前回同様、安全・安心分野で全体的に重要度が高く、健康・福祉分野でも重要度の高い項目が多くみられる。【図表 10】

図表 9 分野別重要度平均値

	全体	安全・安心	健康・福祉	建設・整備	教育・文化	産業・雇用	地域・行政
重要度平均値	0.88	1.26	1.03	0.70	0.57	0.80	0.72

※ 「生活排水対策」、「雇用の安定・勤労者支援」、「国際交流活動・多文化共生」は、前回それぞれ「排水対策（下水道整備など）」、「雇用の安定・勤労者福祉」、「国際交流活動」と表記。また、「歩行者にとっての道路の安全性」は前回「建設・整備」分野の項目、「国際交流活動・多文化共生」は前回「産業・交流」分野の項目。

図表 10 市政に対する重要度の評価点



3 満足度と重要度の評価

(1) 全体評価

- ◆ 全体では、「歩行者にとっての道路の安全性」、「地震などに対する防災対策」、「防犯対策」などで満足度が低く、重要度が高くなっており、優先度が高い。

豊川市の市政における現在の満足度の評価点と重要度の評価点を「安全・安心」「健康・福祉」「建設・整備」「教育・文化」「産業・雇用」「地域・行政」の6分野 49項目について算出し、座標上に表した。横軸が満足度、縦軸が重要度となっており、それぞれの平均値は、満足度が0.15、重要度が0.88となっている。

図の左上部分は、重要度が高く、満足度が低い項目であり、今後の施策の強化が望まれている優先度の高い項目であると言える。【図表 12】

強化が望まれている優先度*の高い項目は、「歩行者にとっての道路の安全性」(1.88)、「地震などに対する防災対策」と「防犯対策」(ともに1.47)、「交通安全対策」と「雇用の安定・勤労者支援」(ともに1.38)などとなっている。【図表 11】

※優先度は「重要度－満足度」で算出し、値が大きいものを優先度が高いと評価している。

※(図表 11：満足・重要・優先度5項目) 優先度の数値が同じ場合は、重要度が高い方を上位と位置付ける。

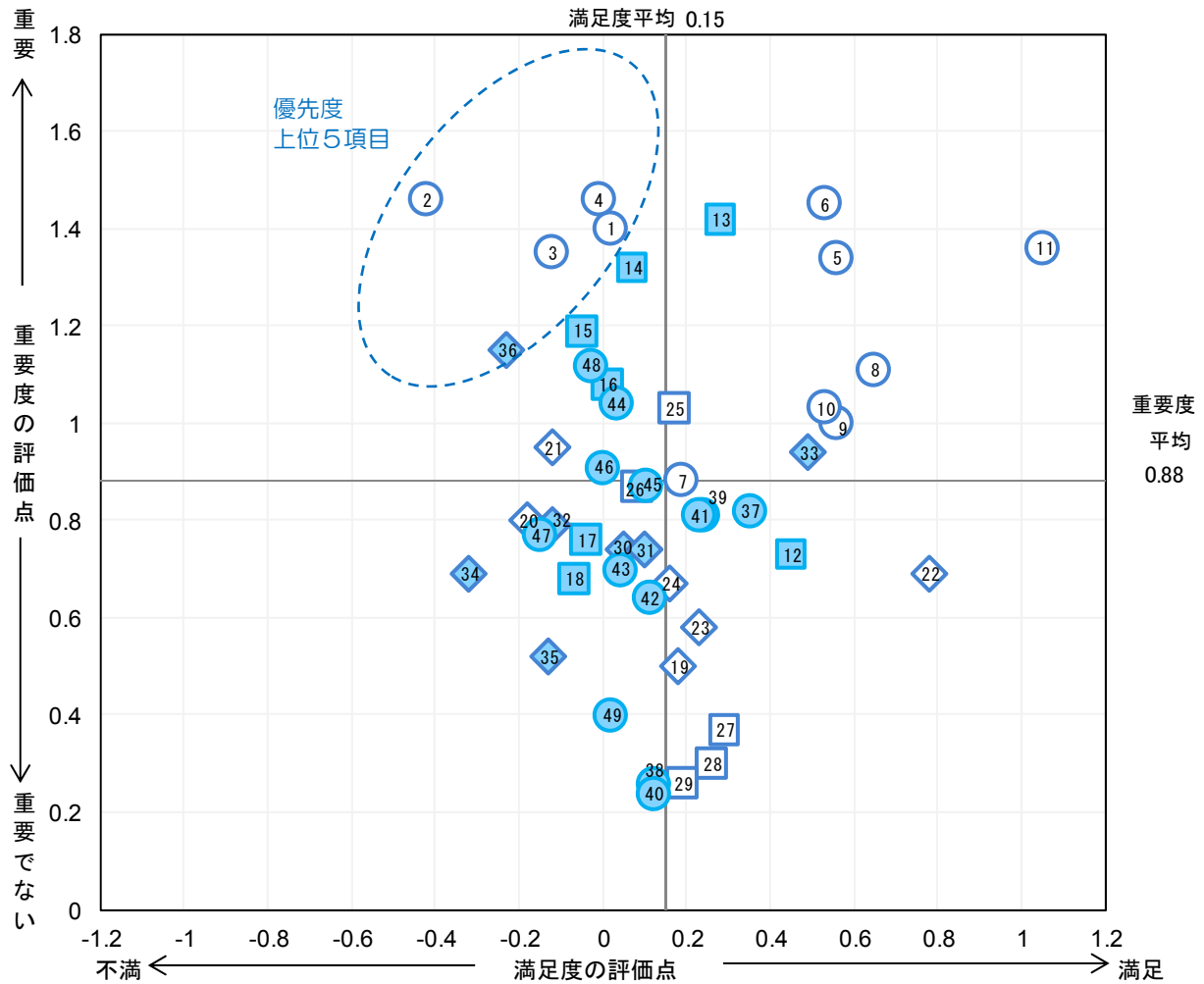
※(図表 11：満足・重要・優先度5項目) 満足度と重要度では、小数点第3位まで算出して順位付けを行っている。

図表 11 満足・重要・優先度5項目

順位	満足度 上位5項目		満足度 下位5項目		重要度 上位5項目	
1	水道水の安全・安定供給	1.05	歩行者にとっての道路の安全性	-0.42	歩行者にとっての道路の安全性	1.46
2	緑・自然の豊かさ	0.78	中心市街地の活性化	-0.32	地震などに対する防災対策	1.46
3	ごみ処理対策	0.65	雇用の安定・勤労者支援	-0.23	救急体制	1.45
4	消防体制	0.56	公共交通機関の利便性	-0.18	医療環境	1.42
5	生活における衛生環境	0.56	職員の定員適正化	-0.15	交通安全対策	1.40

順位	優先度 上位5項目	
1	歩行者にとっての道路の安全性	1.88
2	地震などに対する防災対策	1.47
3	防犯対策	1.47
4	交通安全対策	1.38
5	雇用の安定・勤労者支援	1.38

図表 12 市政に対する満足度と重要度の関係



凡 例								
○ 安全・安心	1	交通安全対策	◇ 建設・整備	19	住環境の整備(区画整理・住宅対策など)	● 地域・行政	37	地域のつきあいや人間関係
	2	歩行者にとっての道路の安全性		20	公共交通機関の利便性		38	男女共同参画
	3	防犯対策		21	道路の整備状況		39	人権の尊重
	4	地震などに対する防災対策		22	緑・自然の豊かさ		40	国際交流活動・多文化共生
	5	消防体制	23	公園の状況	41		市からの情報提供・公表	
	6	救急体制	24	河川の状況	42		地域の情報化	
	7	地球環境の保全	□ 教育・文化	25	学校の指導や取り組み		43	公共施設の適正配置
	8	ごみ処理対策		26	青少年の育成・支援		44	道路、橋などの適正な維持管理
	9	生活における衛生環境		27	生涯学習の取り組み		45	行政サービス
	10	生活排水対策		28	スポーツの振興		46	職員の資質向上
	11	水道水の安全・安定供給		29	文化芸術の振興		47	職員の定員適正化
■ 健康・福祉	12	健康づくり	◇ 産業・雇用	30	農業の振興	48	健全な財政運営	
	13	医療環境		31	工業の振興	49	東三河広域連合の活用	
	14	子どもを生き、育てる環境		32	商業の振興			
	15	高齢者福祉		33	日用品などの買い物の利便性			
	16	障害者福祉		34	中心市街地の活性化			
	17	ひとり親家庭支援		35	観光の振興			
	18	経済的な自立支援		36	雇用の安定・勤労者支援			

3 安全・安心について

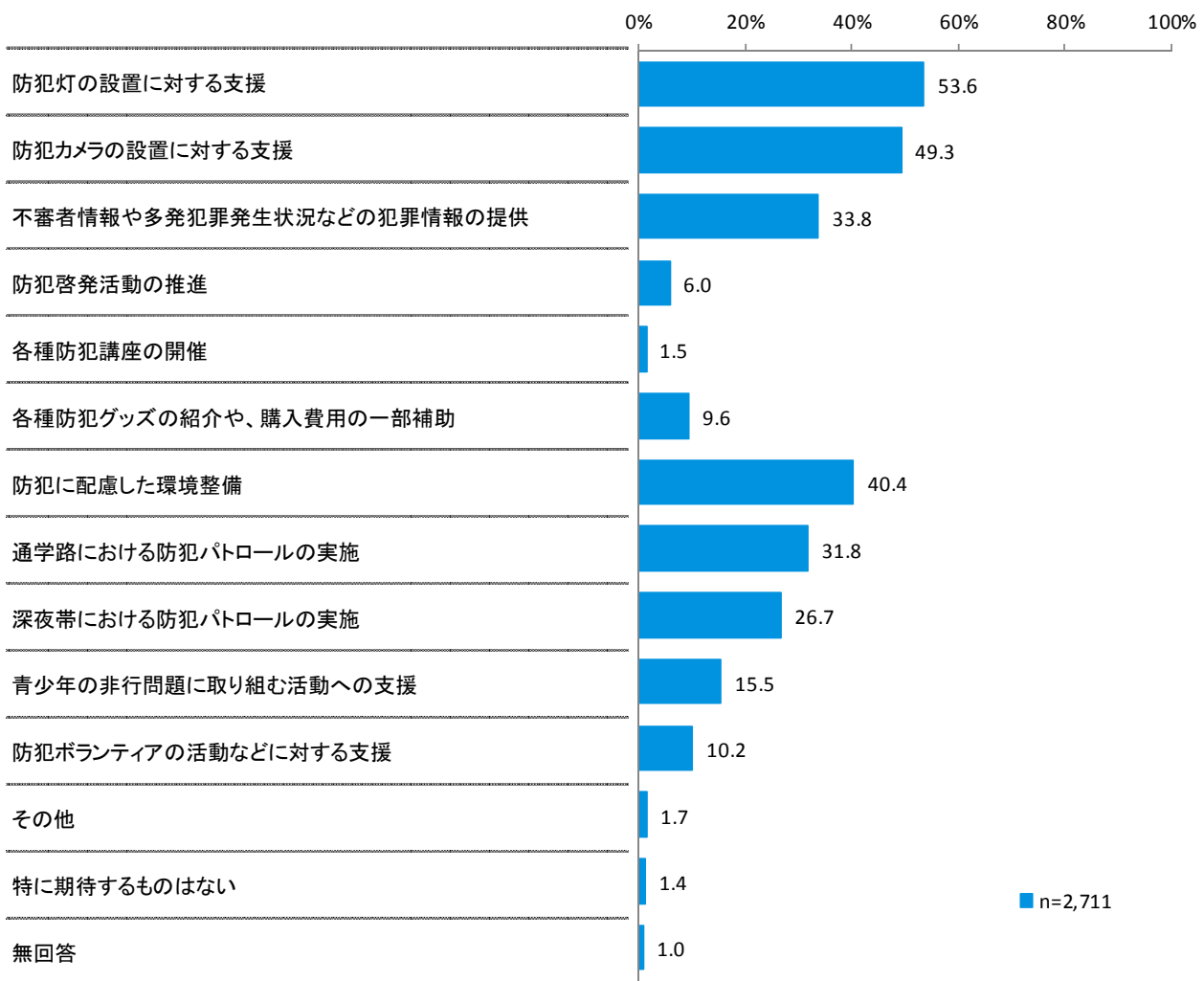
1 防犯対策の行政への期待

問3 あなたは、防犯対策について、行政にどのようなことを期待しますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

◆ 防犯対策で行政に期待することは「防犯灯の設置に対する支援」が53.6%

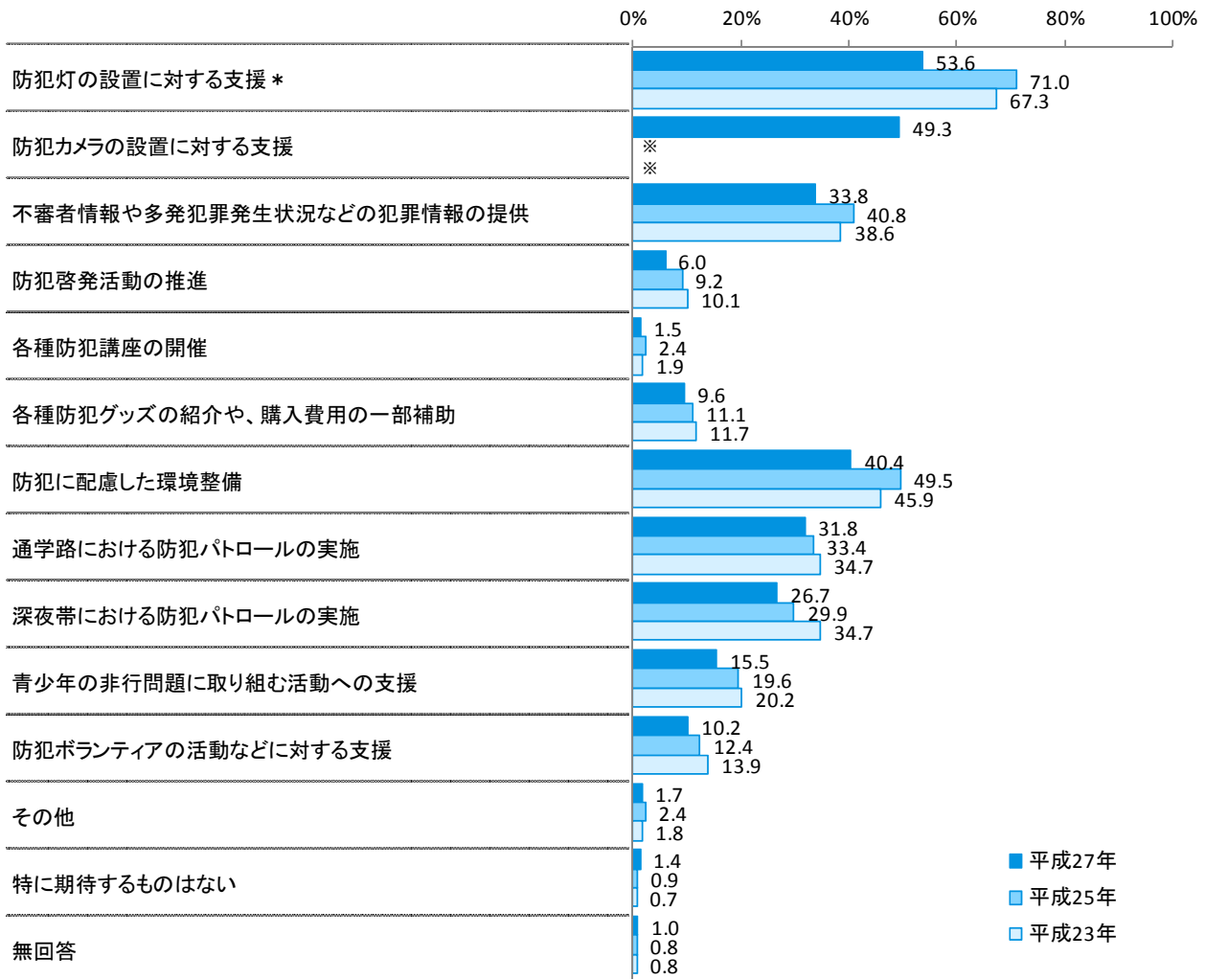
防犯対策への期待では、「防犯灯の設置に対する支援」(53.6%)が最も高く、次いで「防犯カメラの設置に対する支援」(49.3%)、「防犯に配慮した環境整備」(40.4%)の順となっている。【図表 13】

図表 13 防犯対策の行政への期待



経年比較でみると、前回調査と比較して減少した項目は、「防犯灯の設置に対する支援」(17.4ポイント減；前回「街路灯や防犯灯の設置」と表記)、「防犯に配慮した環境整備」(9.1ポイント減)、「不審者情報や多発犯罪発生状況などの犯罪情報の提供」(7.0ポイント減)、「青少年の非行問題に取り組む活動への支援」(4.1ポイント減)などとなっている。一方、前回調査と比較して大きく増加した項目はない。【図表 14】

図表 14 防犯対策の行政への期待（経年比較）



※調査項目に含まれず

* 「防犯灯の設置に対する支援」は、前回「街路灯や防犯灯の設置」と表記。

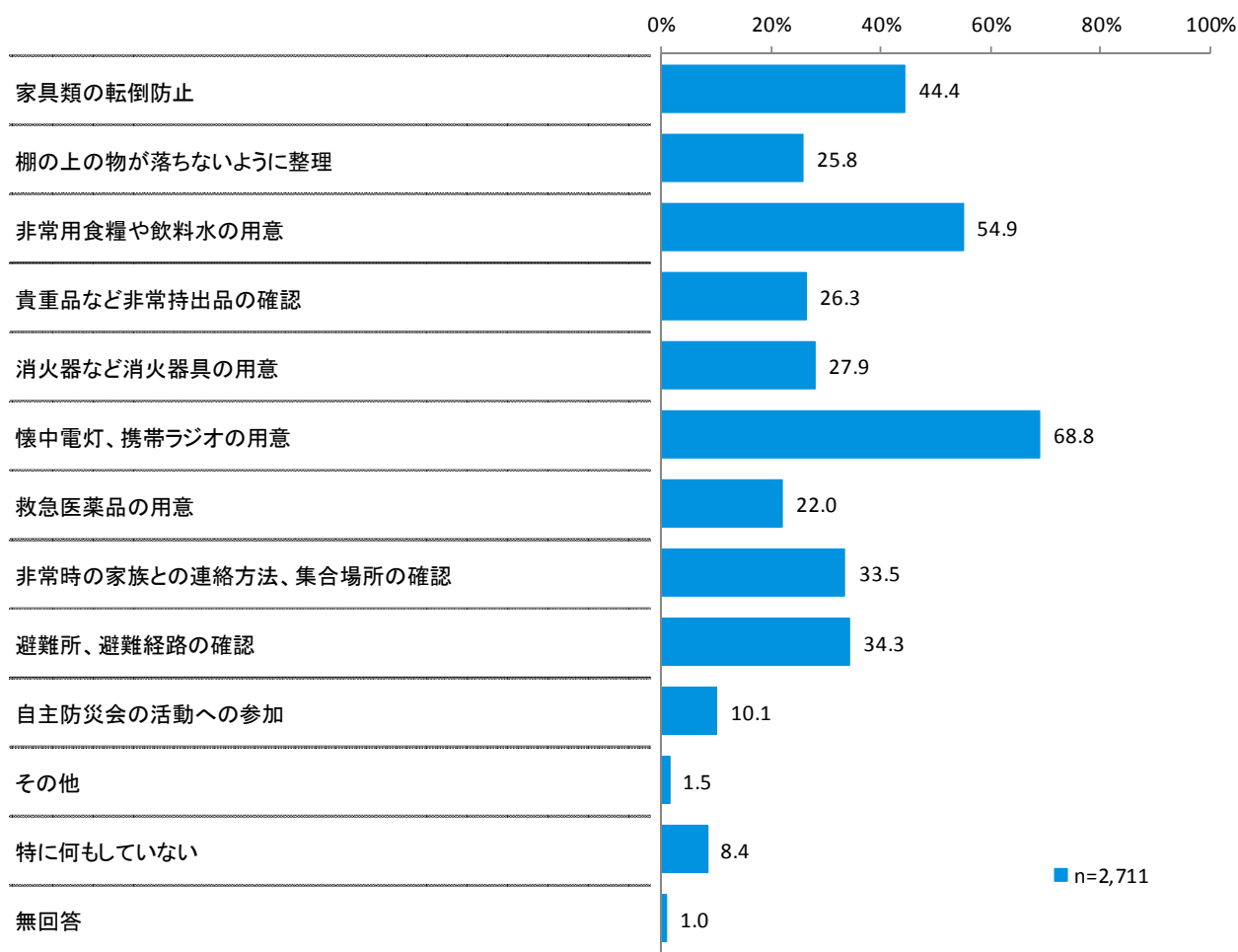
2 日ごろの地震に備えた対策

問4 あなたのご家庭では、日ごろ地震に備えてどのような対策をしていますか。次の中からあてはまるものすべてに○印をつけてください。

◆ 日ごろの地震に備えた対策は「懐中電灯、携帯ラジオの用意」が68.8%

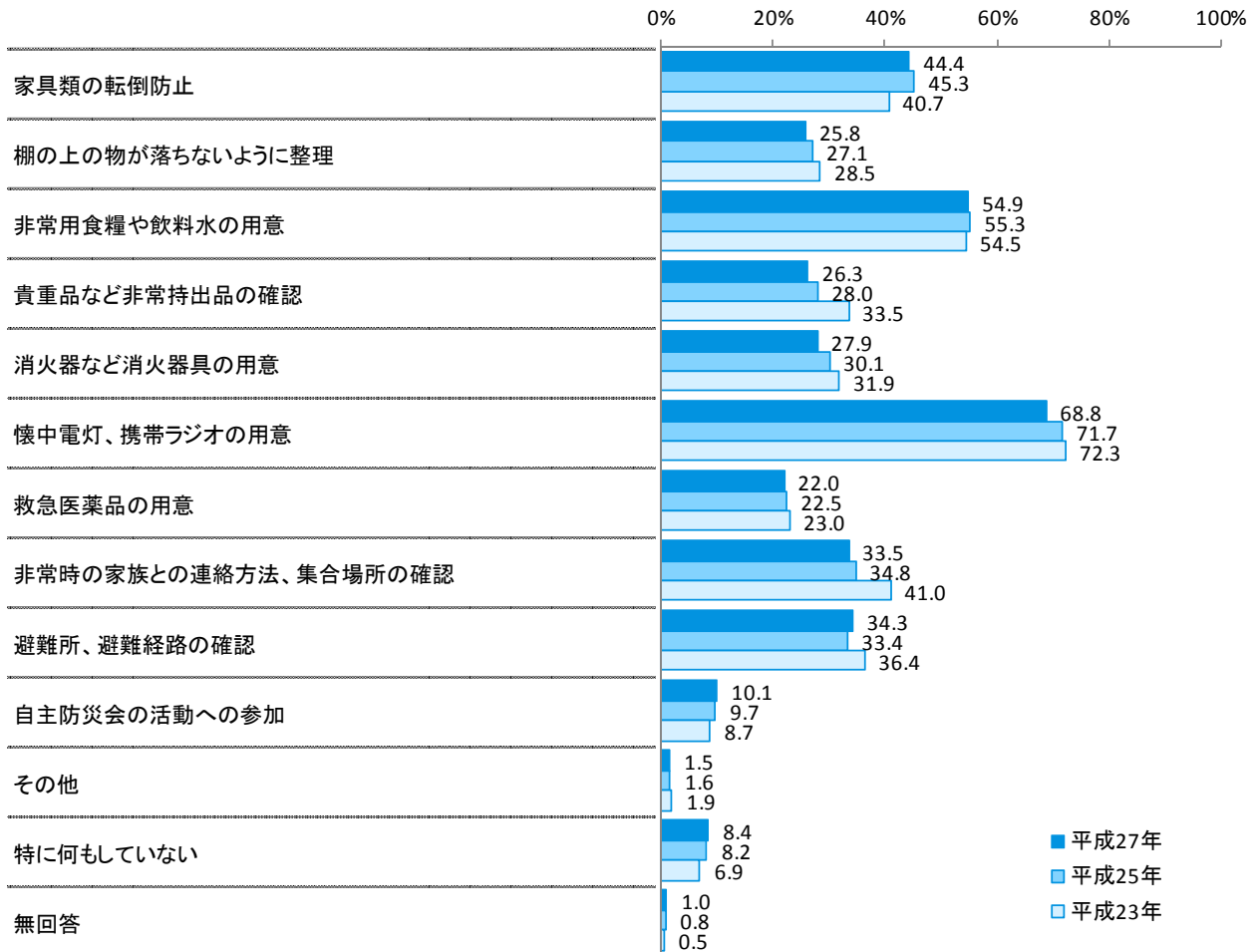
日ごろの地震に備えた対策では、「懐中電灯、携帯ラジオの用意」(68.8%)が最も高く、次いで「非常用食糧や飲料水の用意」(54.9%)、「家具類の転倒防止」(44.4%)の順となっている。【図表 15】

図表 15 日ごろの地震に備えた対策



経年比較でみると、前回調査と比較して、大きな増減はみられない。【図表 16】

図表 16 日ごろの地震に備えた対策（経年比較）



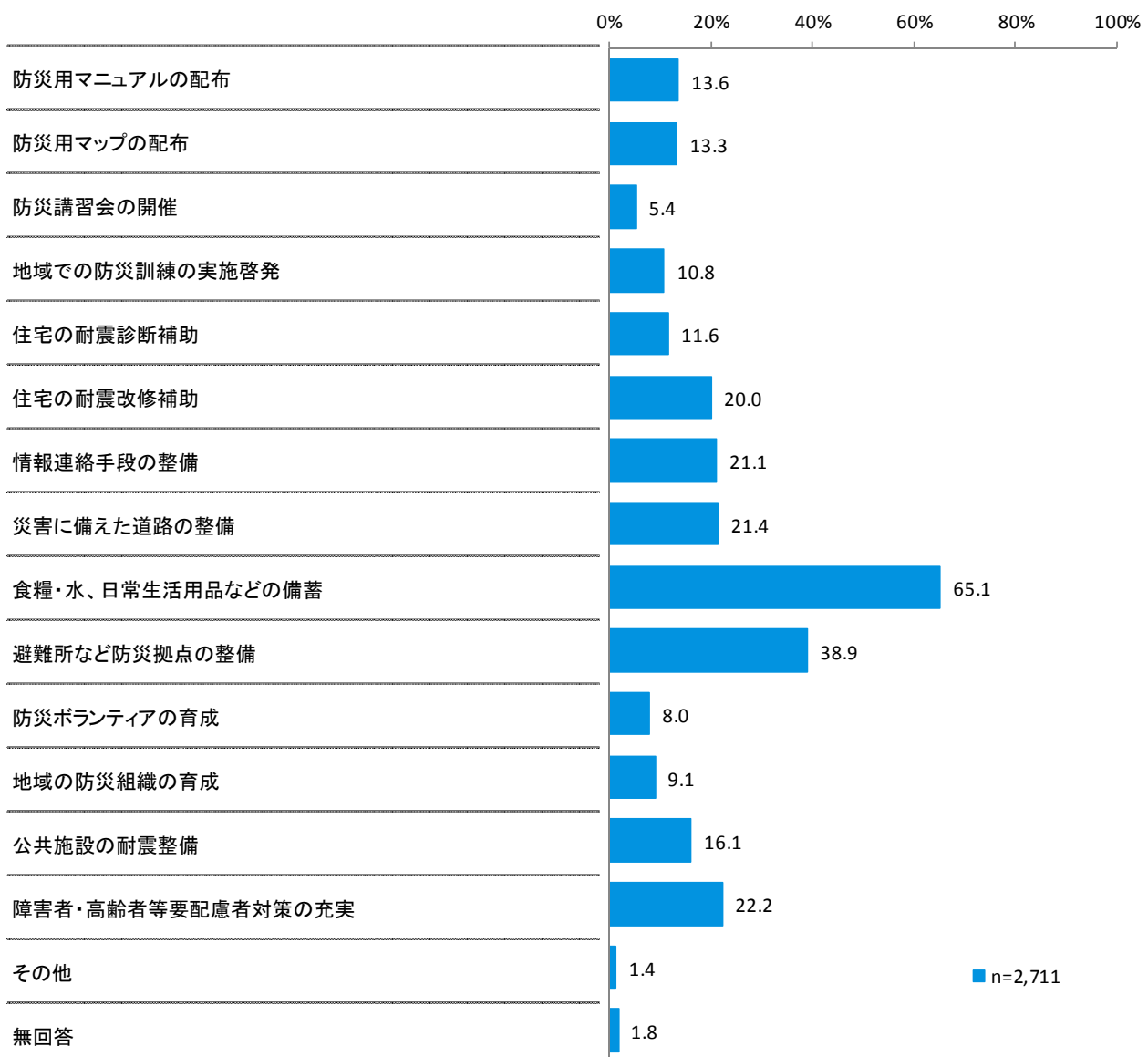
3 防災対策の行政への期待

問5 あなたは、防災対策として、行政にどのようなことを期待しますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

◆ 防災対策で行政に期待することは「食糧・水、日常生活用品などの備蓄」が65.1%

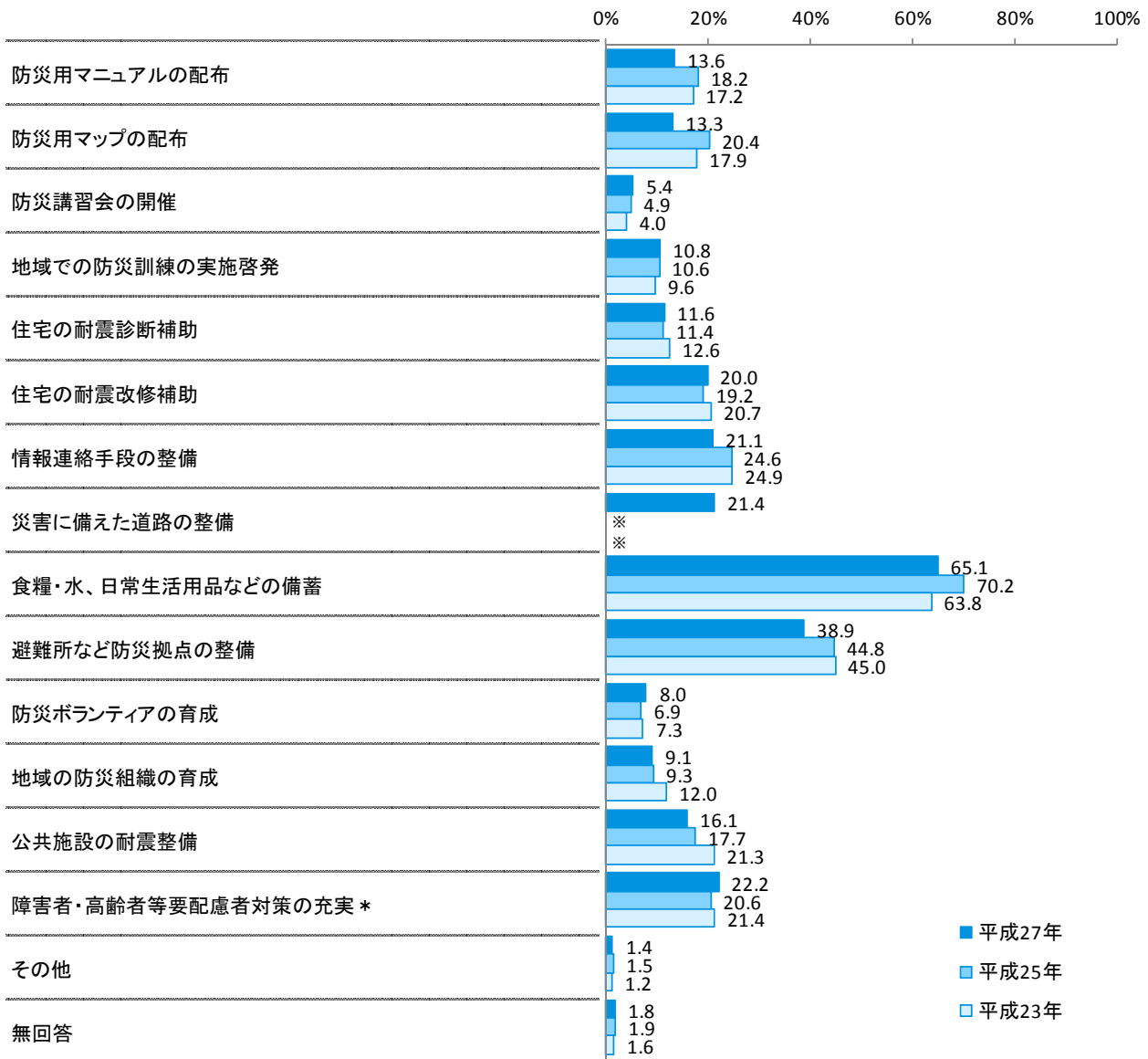
防災対策で行政に期待することは、「食糧・水、日常生活用品などの備蓄」（65.1%）が最も高く、次いで「避難所など防災拠点の整備」（38.9%）、「障害者・高齢者等要配慮者対策の充実」（22.2%）の順となっている。【図表 17】

図表 17 防災対策の行政への期待



経年比較でみると、前回調査と比較して減少した項目は、「防災用マップの配布」(7.1ポイント減)、「避難所など防災拠点の整備」(5.9ポイント減)などとなっている。一方、前回調査と比較して大きく増加した項目はない。【図表 18】

図表 18 防災対策の行政への期待（経年比較）



※調査項目に含まれず

* 「障害者・高齢者等要配慮者対策の充実」は、前回「障害者・高齢者等災害時要援護者対策の充実」と表記。

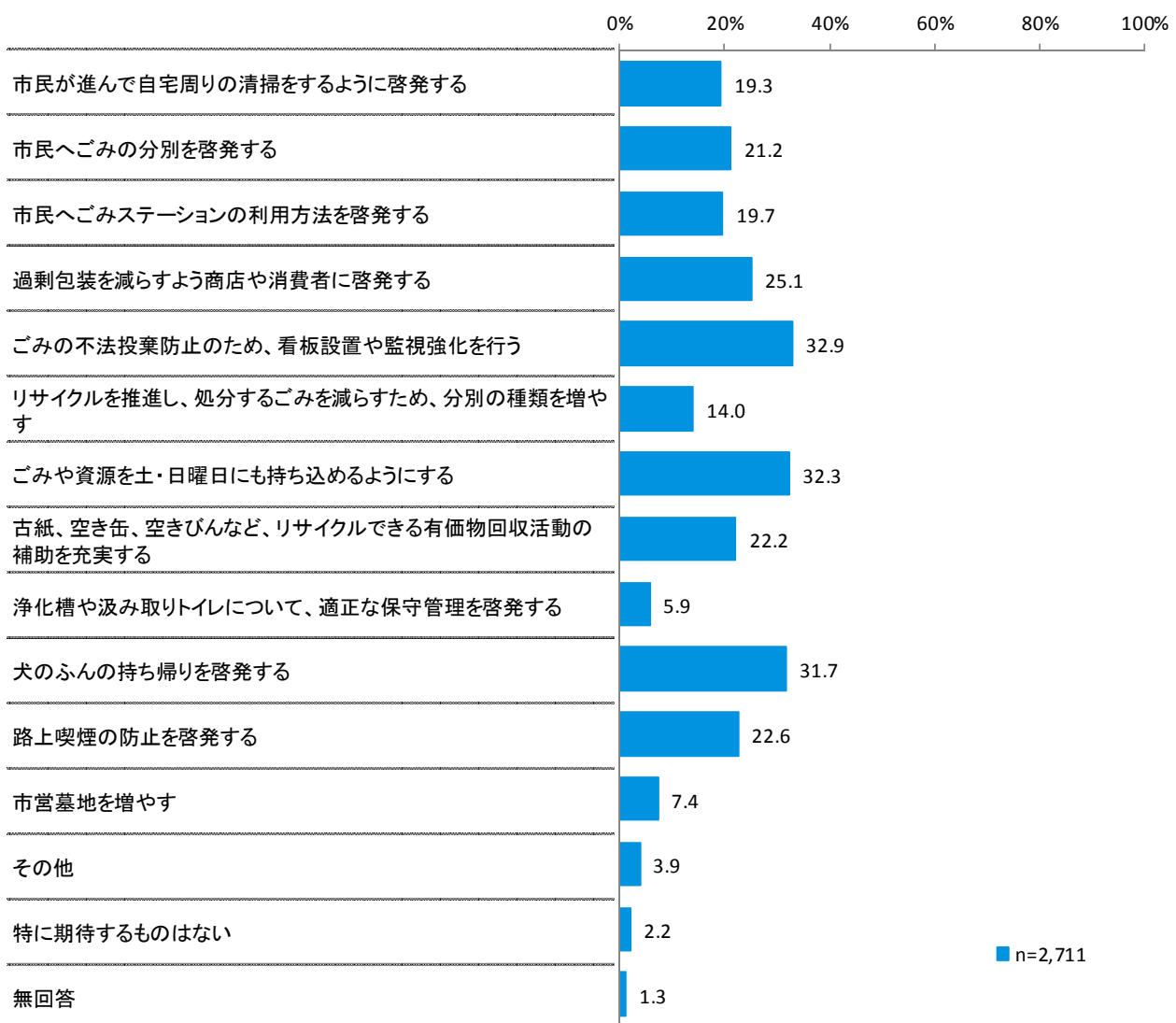
4 衛生環境の行政への期待

問6 あなたが生活するうえでの衛生環境について、行政にどのようなことを期待しますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

- ◆ 衛生環境で行政に期待することは「ごみの不法投棄防止のため、看板設置や監視強化を行う」が32.9%、「ごみや資源を土・日曜日にも持ち込めるようにする」が32.3%

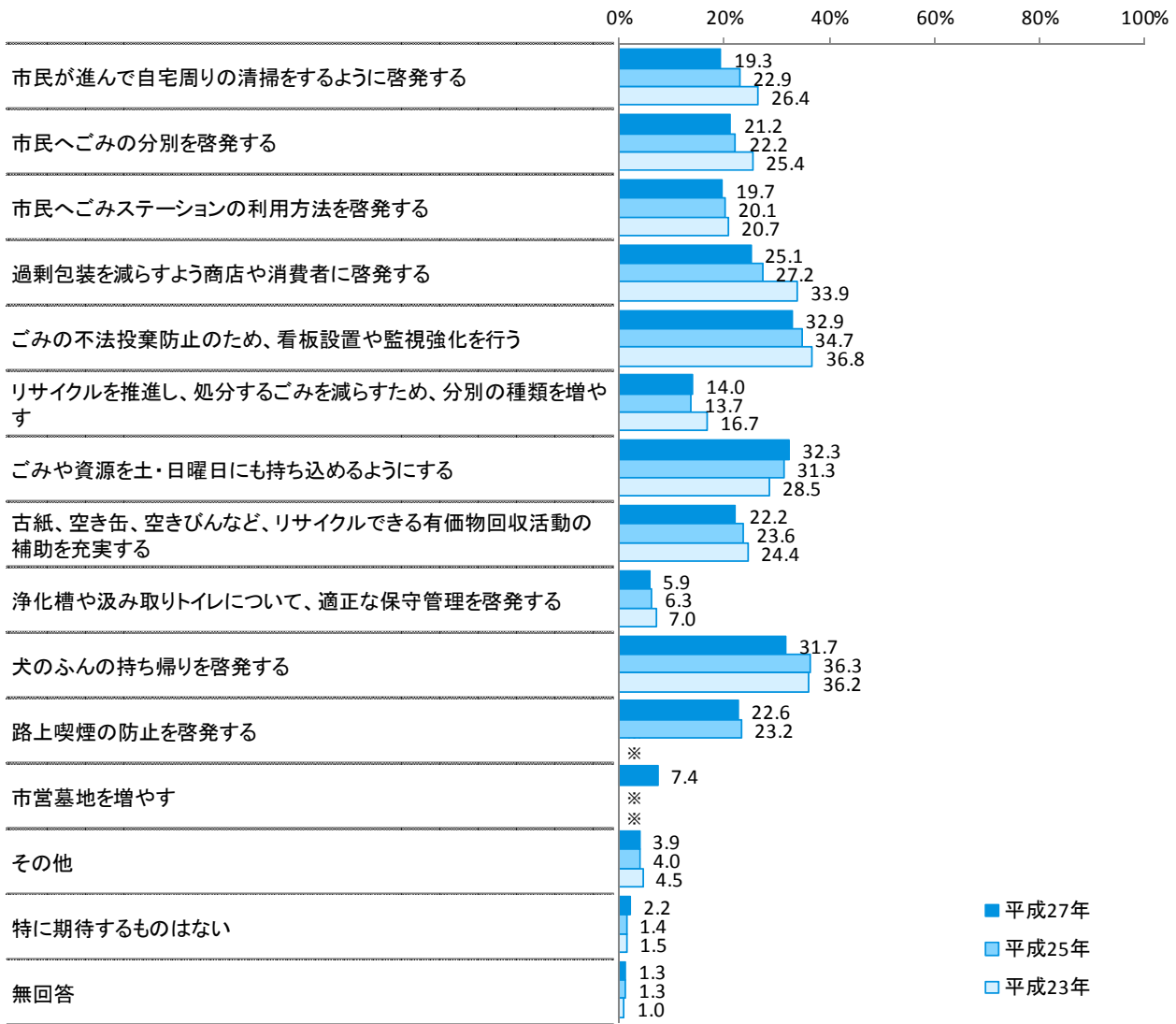
衛生環境で行政に期待することは、「ごみの不法投棄防止のため、看板設置や監視強化を行う」(32.9%)が最も高く、次いで「ごみや資源を土・日曜日にも持ち込めるようにする」(32.3%)、「犬のふんの持ち帰りを啓発する」(31.7%)の順となっている。【図表 19】

図表 19 衛生環境の行政への期待



経年比較でみると、前回調査と比較して減少した項目は、「犬のふんの持ち帰りを啓発する」（4.6ポイント減）、「市民が進んで自宅周りの清掃をするように啓発する」（3.6ポイント減）などとなっている。一方、前回調査と比較し、大きく増加した項目はない。【図表 20】

図表 20 衛生環境の行政への期待（経年比較）



※調査項目に含まれず

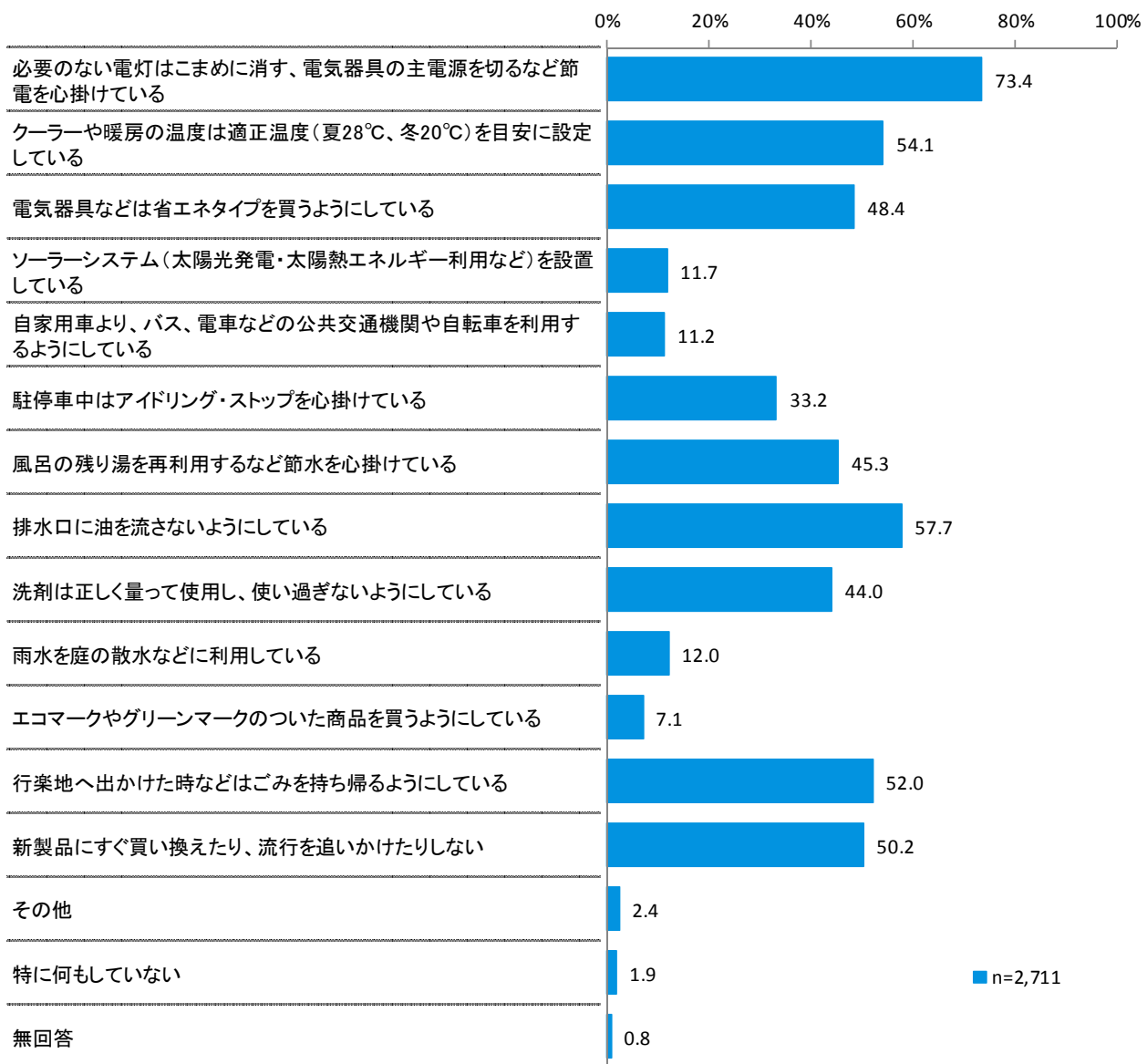
5 省エネや環境に負担をかけないための心掛け

問7 あなたは、省エネや環境に負担をかけないために、日ごろ生活の中でどのようなことを心掛けていますか。次の中から行っていることすべてに○印をつけてください。

- ◆ 省エネや環境に負担をかけないために日ごろ生活の中で心掛けていることは「必要のない電灯はこまめに消す、電気器具の主電源を切るなど節電を心掛けている」が73.4%

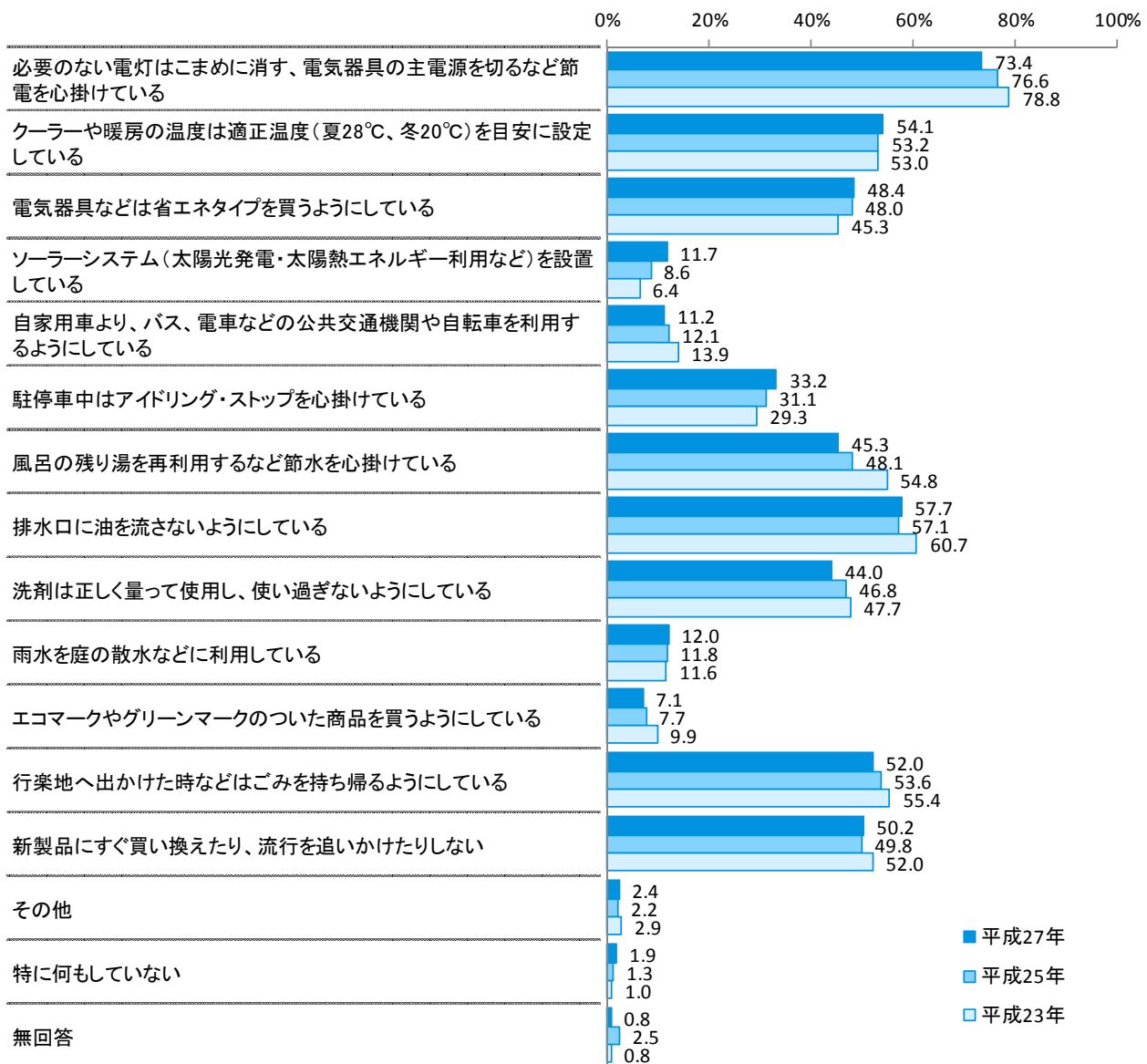
省エネや環境に負担をかけないために日ごろ生活の中で心掛けていることは、「必要のない電灯はこまめに消す、電気器具の主電源を切るなど節電を心掛けている」(73.4%)が最も高く、次いで「排水口に油を流さないようにしている」(57.7%)、「クーラーや暖房の温度は適正温度(夏28℃、冬20℃)を目安に設定している」(54.1%)、「行楽地へ出かけた時などはごみを持ち帰るようにしている」(52.0%)の順となっている。【図表 21】

図表 21 省エネや環境に負担をかけないための心掛け



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「ソーラーシステム（太陽光発電・太陽熱エネルギー利用など）を設置している」（3.1ポイント増）などとなっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「必要のない電灯はこまめに消す、電気器具の主電源を切るなど節電を心掛けている」（3.2ポイント減）などとなっている。【図表 22】

図表 22 省エネや環境に負担をかけないための心掛け（経年比較）



4 健康・福祉について

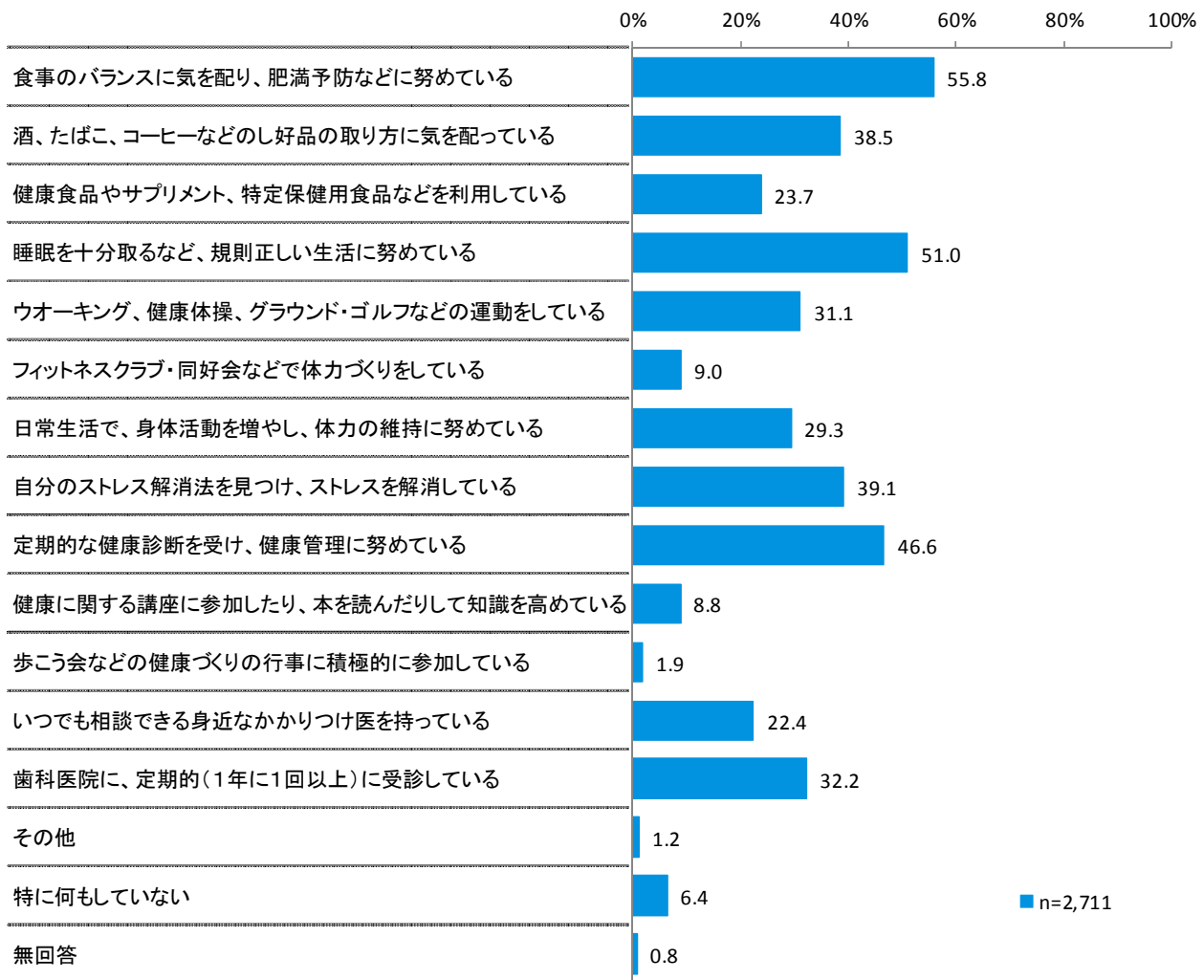
1 健康の維持・増進のための心掛け

問8 あなたは、健康維持や増進のために、日ごろからどのようなことを心掛けていますか。次の中から行っていることすべてに○印をつけてください。

◆ **健康維持や増進のために日ごろから心掛けていることは「食事のバランスに気を配り、肥満予防などに努めている」が55.8%**

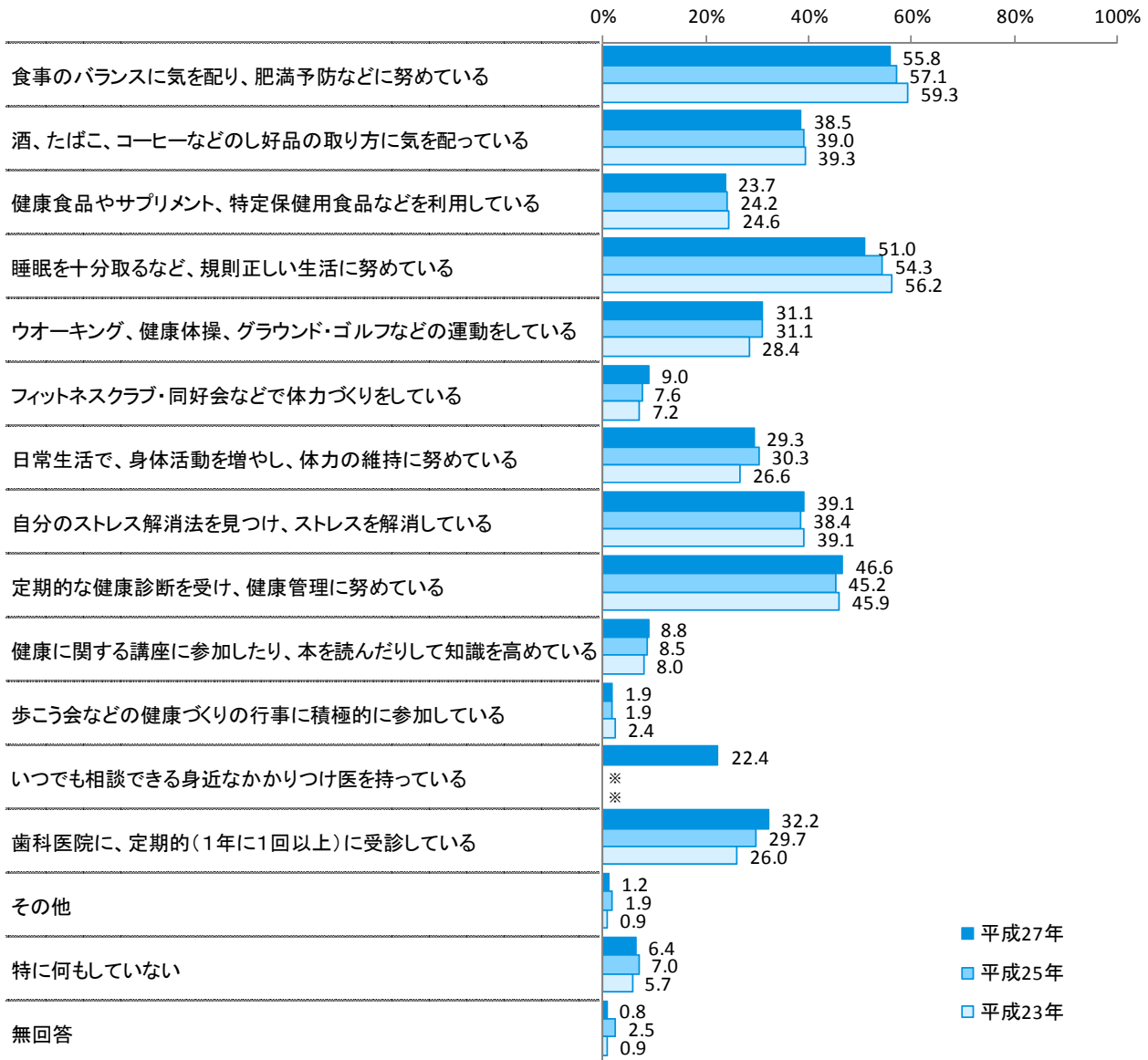
健康維持や増進のために日ごろから心掛けていることは、「食事のバランスに気を配り、肥満予防などに努めている」(55.8%)が最も高く、次いで「睡眠を十分取るなど、規則正しい生活に努めている」(51.0%)、「定期的な健康診断を受け、健康管理に努めている」(46.6%)の順となっている。【図表 23】

図表 23 健康の維持・増進のための心掛け



経年比較でみると、前回調査と比較して減少した項目は、「睡眠を十分取るなど、規則正しい生活に努めている」(3.3ポイント減)となっている。一方、前回調査と比較して大きく増加した項目はない。【図表 24】

図表 24 健康の維持・増進のための心掛け（経年比較）



※調査項目に含まれず

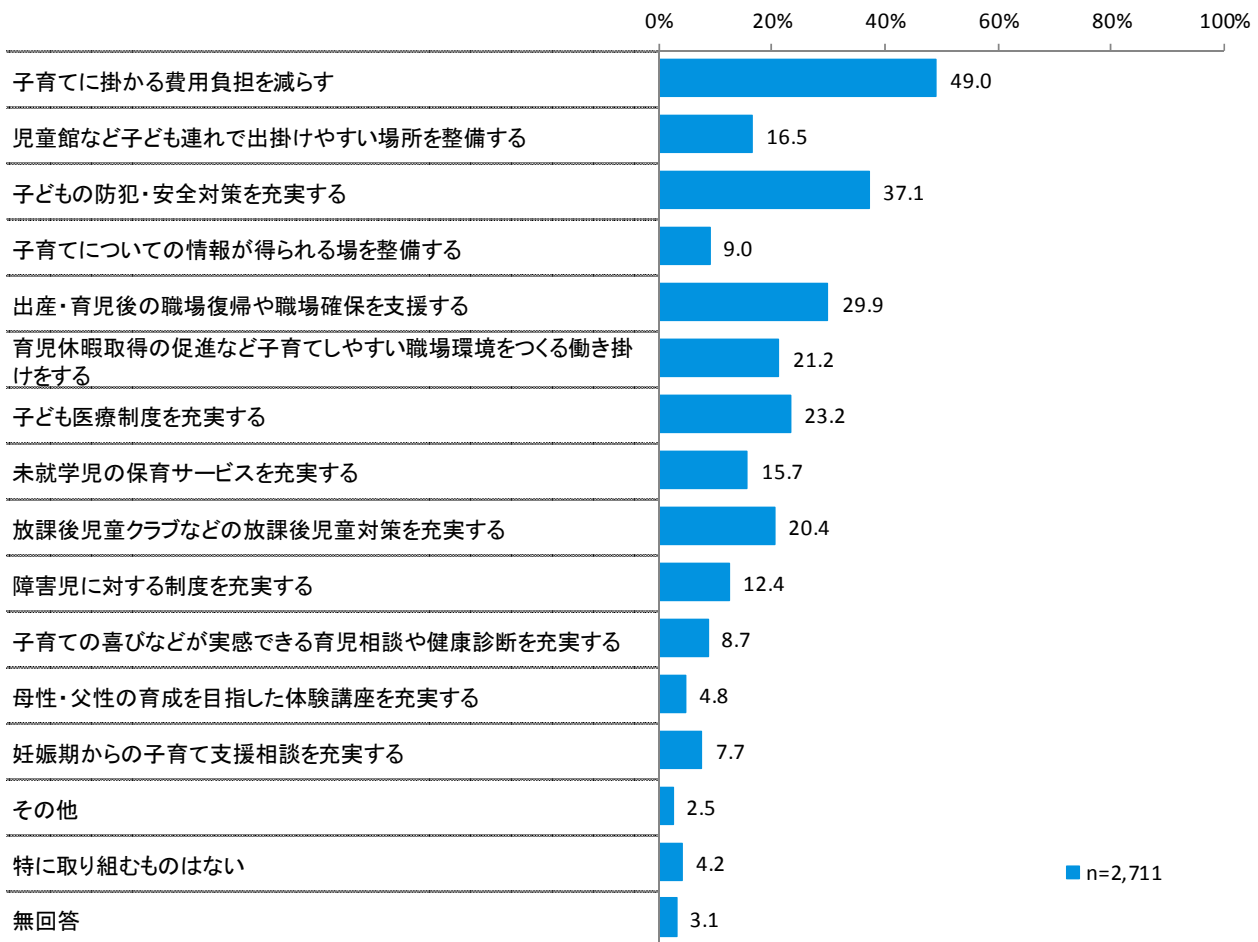
2 子育て環境の充実のために行政が取り組むべきこと

問9 あなたは、子どもを生み、育てる環境を充実させるために、行政が今後どのようなことに取り組むべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

◆ 子どもを生み、育てる環境を充実させるために行政が取り組むべきことは「子育てに掛かる費用負担を減らす」が49.0%

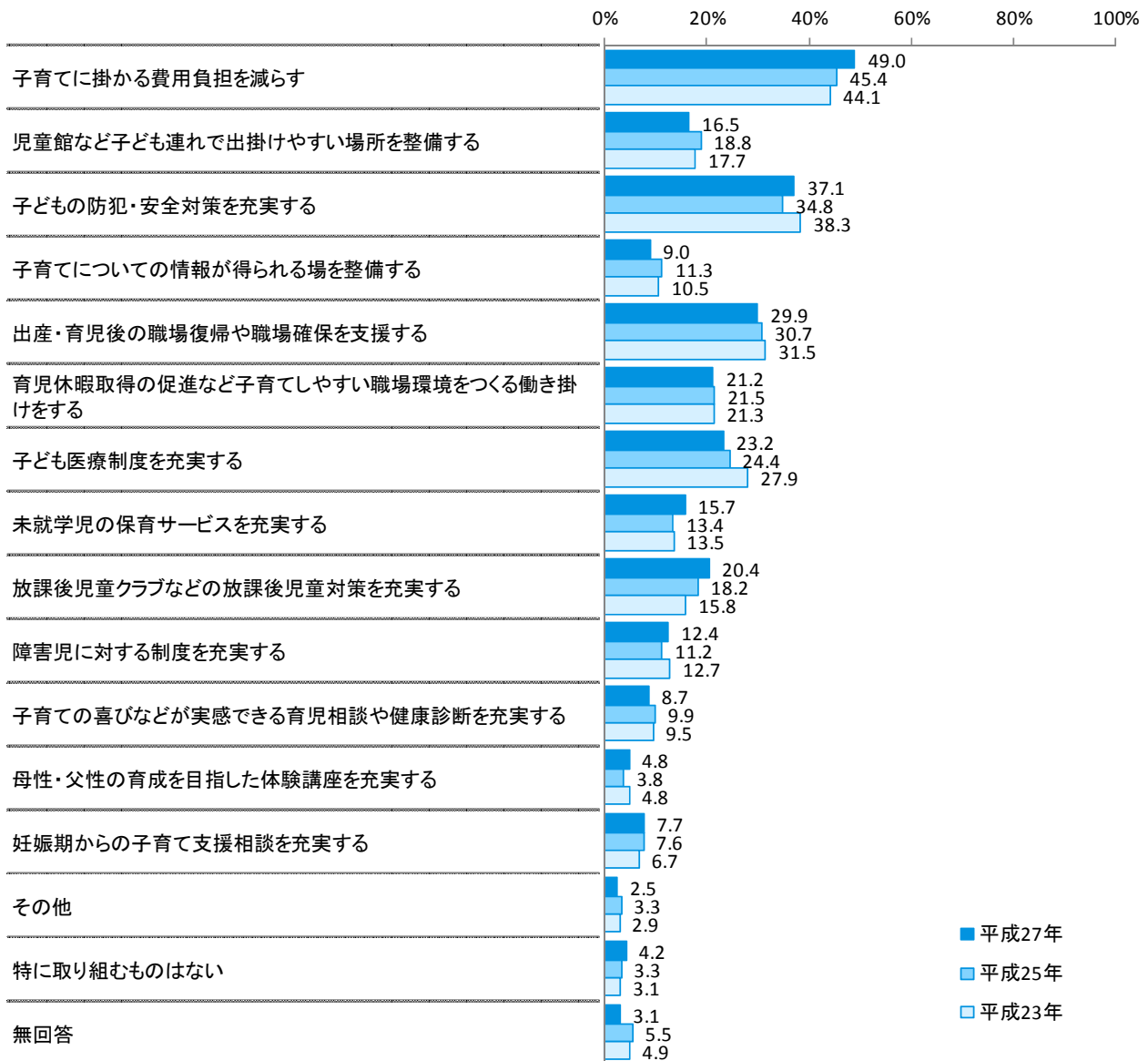
子どもを生み、育てる環境を充実させるために行政が取り組むべきことは、「子育てに掛かる費用負担を減らす」(49.0%)が最も高く、次いで「子どもの防犯・安全対策を充実する」(37.1%)、「出産・育児後の職場復帰や職場確保を支援する」(29.9%)の順となっている。【図表 25】

図表 25 子育て環境の充実のために行政が取り組むべきこと



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「子育てに掛かる費用負担を減らす」(3.6ポイント増)などとなっている。一方、前回調査と比較して大きく減少した項目はない。【図表 26】

図表 26 子育て環境の充実のために行政が取り組むべきこと（経年比較）



5 建設・整備について

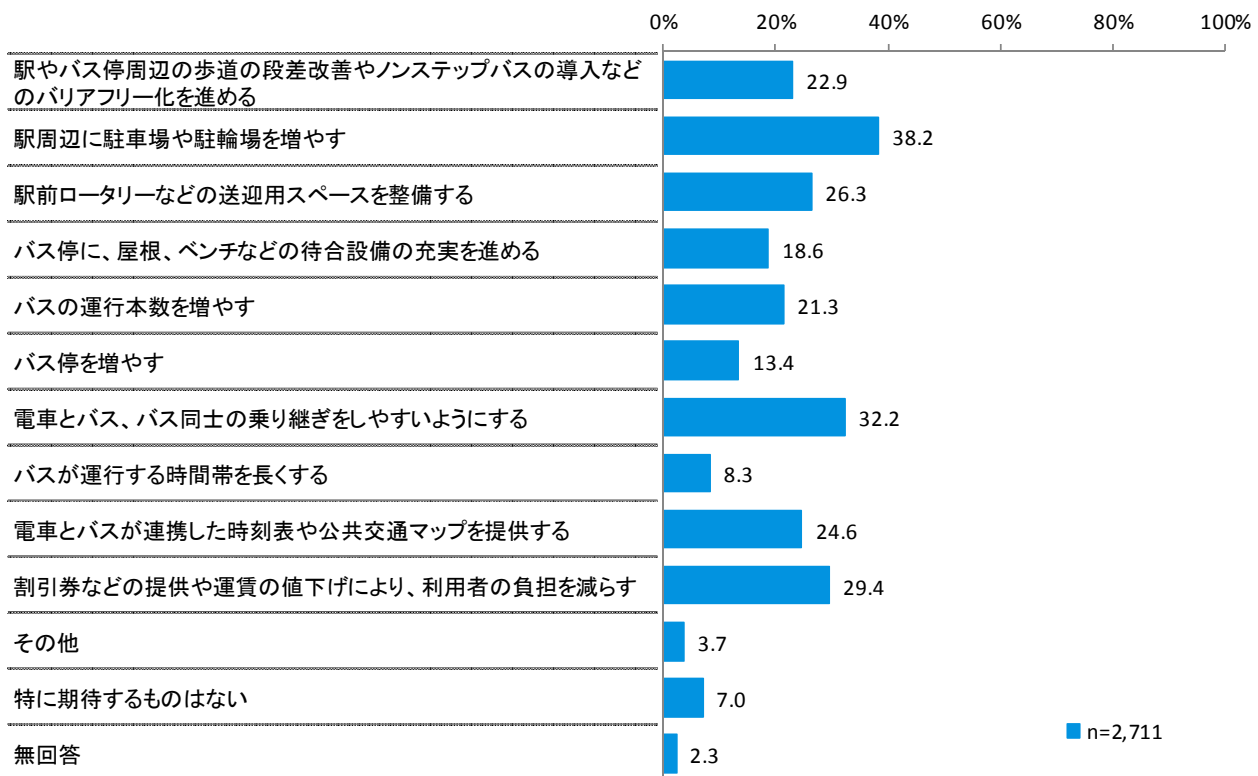
1 公共交通機関の利便性の行政への期待

問 10 あなたは、公共交通機関（電車・バス）の利便性を向上させるために、行政にどのようなことを期待しますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

- ◆ 公共交通機関の利便性向上のために行政に期待することは「駅周辺に駐車場や駐輪場を増やす」が38.2%、「電車とバス、バス同士の乗り継ぎをしやすいようにする」が32.2%

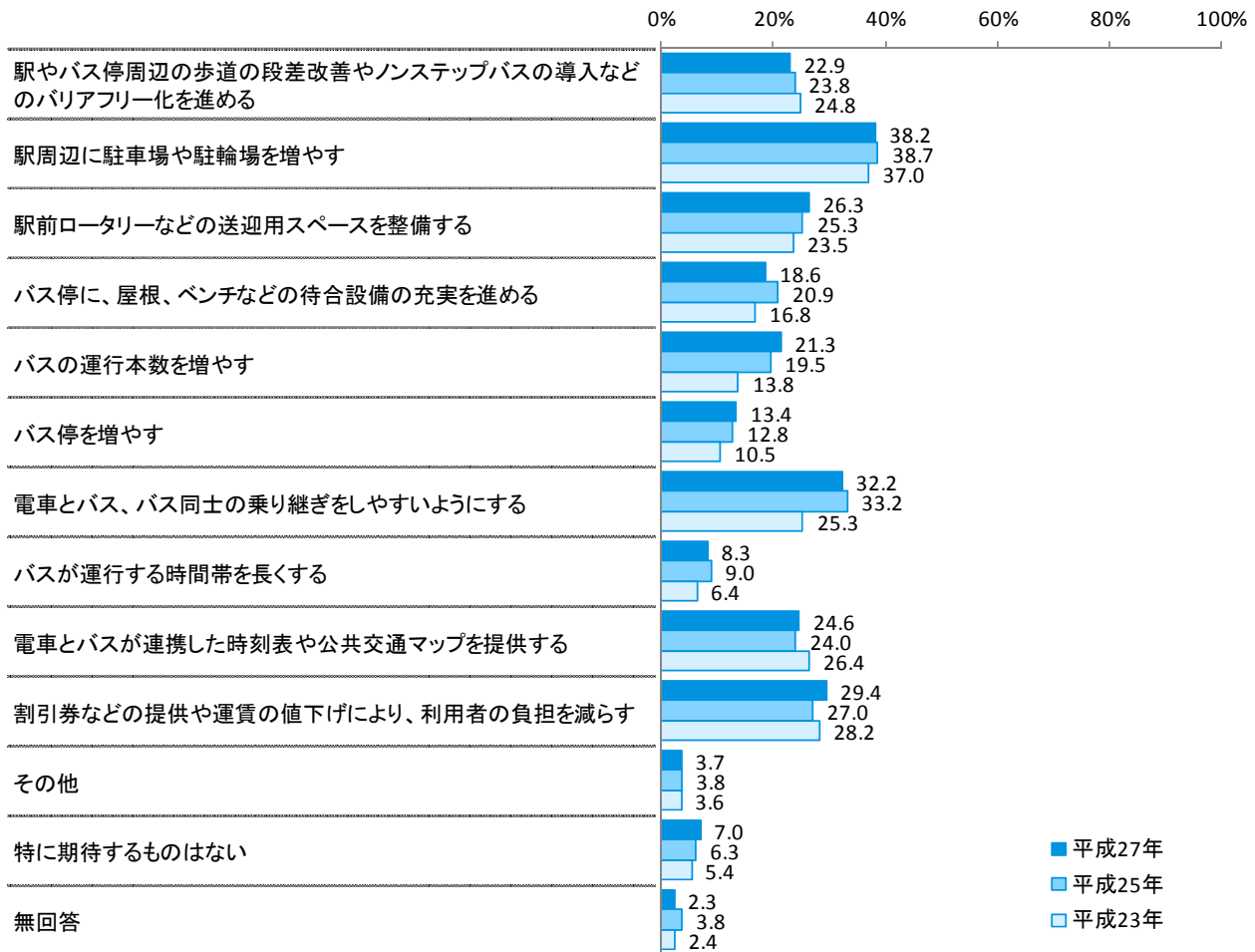
公共交通機関の利便性を向上させるために行政に期待することは、「駅周辺に駐車場や駐輪場を増やす」（38.2%）が最も高く、次いで「電車とバス、バス同士の乗り継ぎをしやすいようにする」（32.2%）、「割引券などの提供や運賃の値下げにより、利用者の負担を減らす」（29.4%）の順となっている。【図表 27】

図表 27 公共交通機関の利便性の行政への期待



経年比較でみると、大きな変化はみられない。【図表 28】

図表 28 公共交通機関の利便性の行政への期待（経年比較）



2 道路の整備の行政への期待

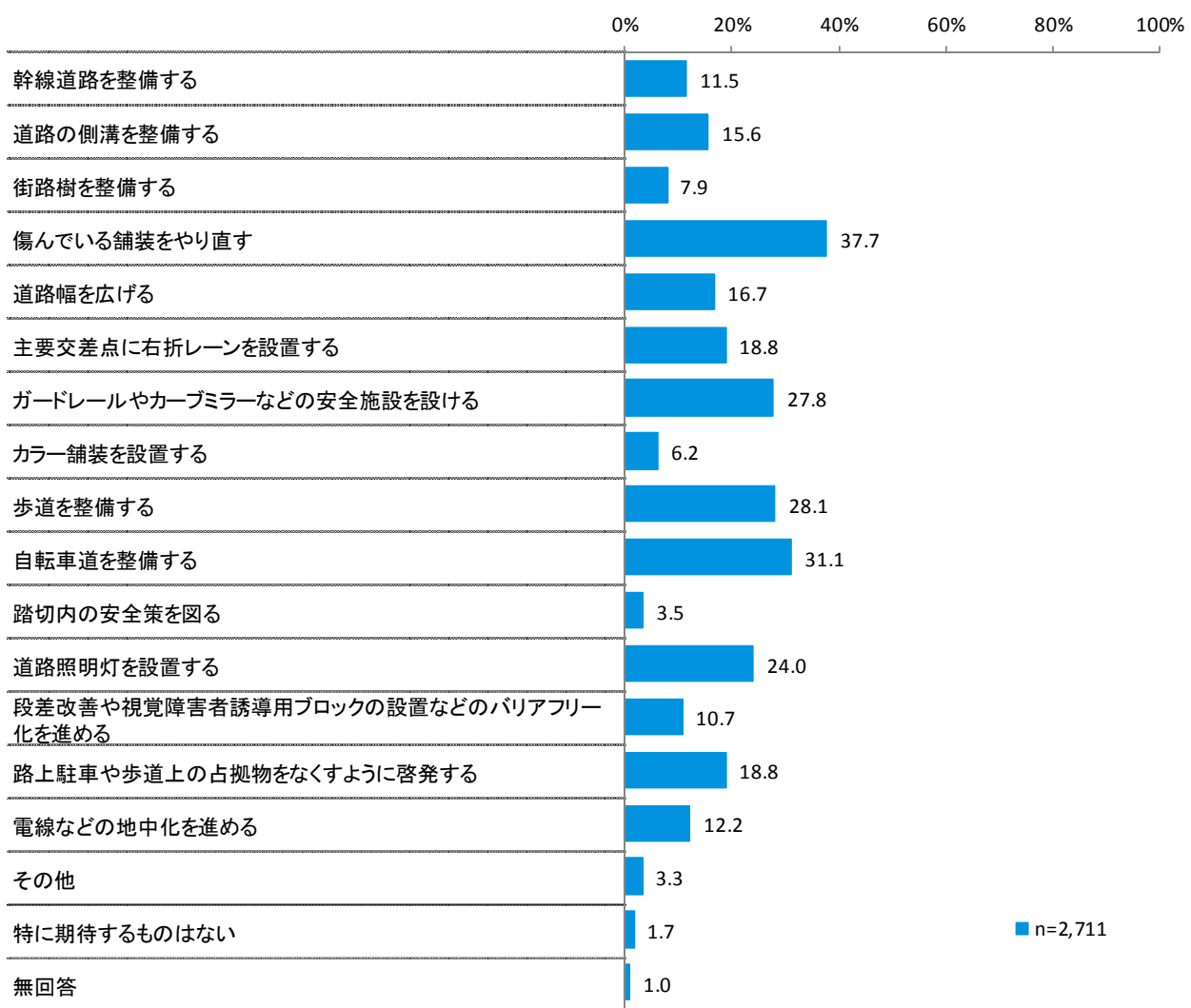
問 11 あなたは、道路の整備について、行政にどのようなことを期待しますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

- ◆ 道路の整備について行政に期待することは「傷んでいる舗装をやり直す」が37.7%、「自転車道を整備する」が31.1%

道路の整備について行政に期待することは、「傷んでいる舗装をやり直す」(37.7%)が最も高く、次いで「自転車道を整備する」(31.1%)、「歩道を整備する」(28.1%)となっている。

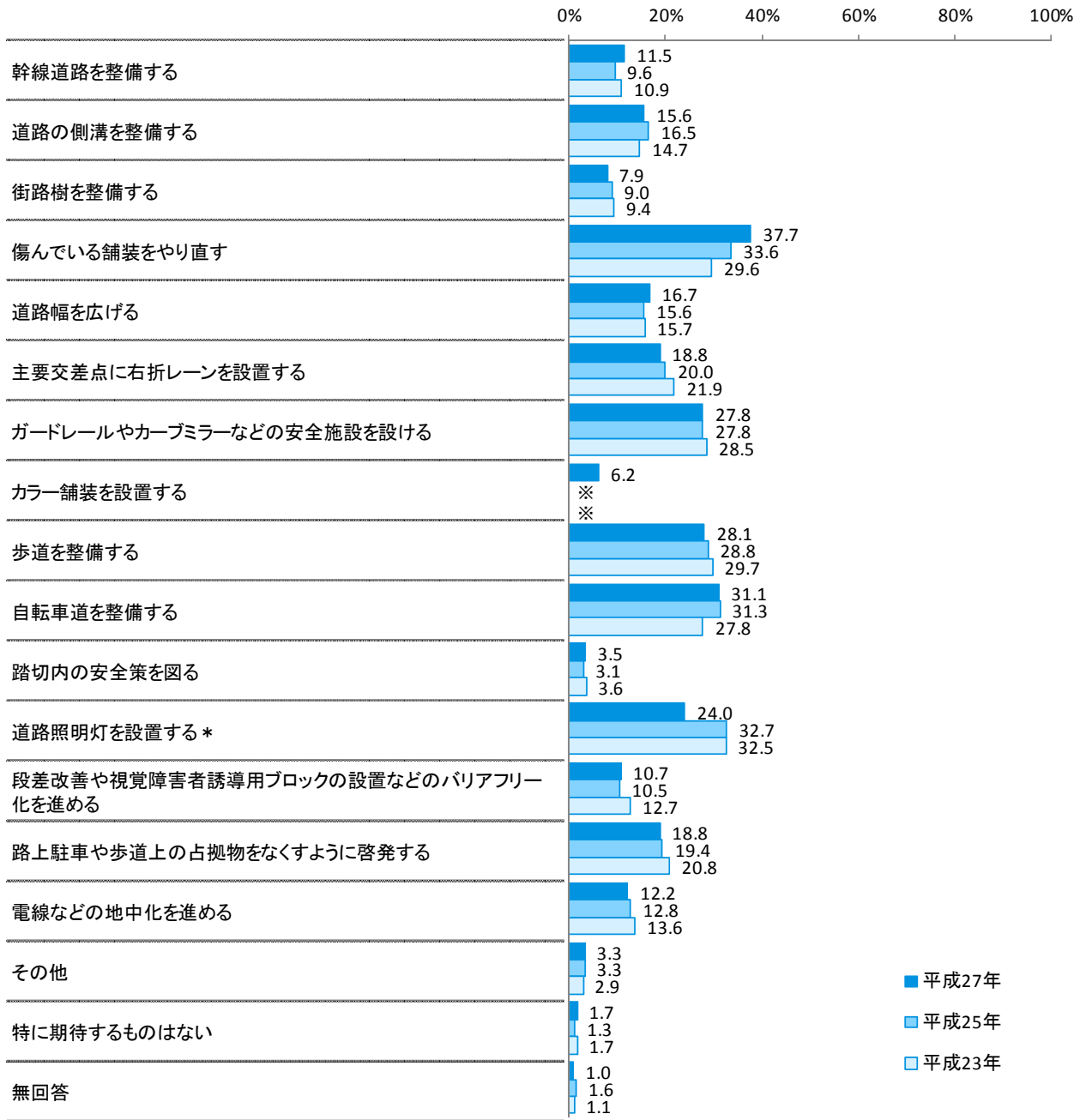
【図表 29】

図表 29 道路の整備の行政への期待



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「傷んでいる舗装をやり直す」(4.1ポイント増)となっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「道路照明灯を設置する」(8.7ポイント減;前回「道路照明灯や防犯灯を設置する」と表記)となっている。【図表 30】

図表 30 道路の整備の行政への期待（経年比較）



※調査項目に含まれず

* 「道路照明灯を設置する」は、前回「道路照明灯や防犯灯を設置する」と表記。

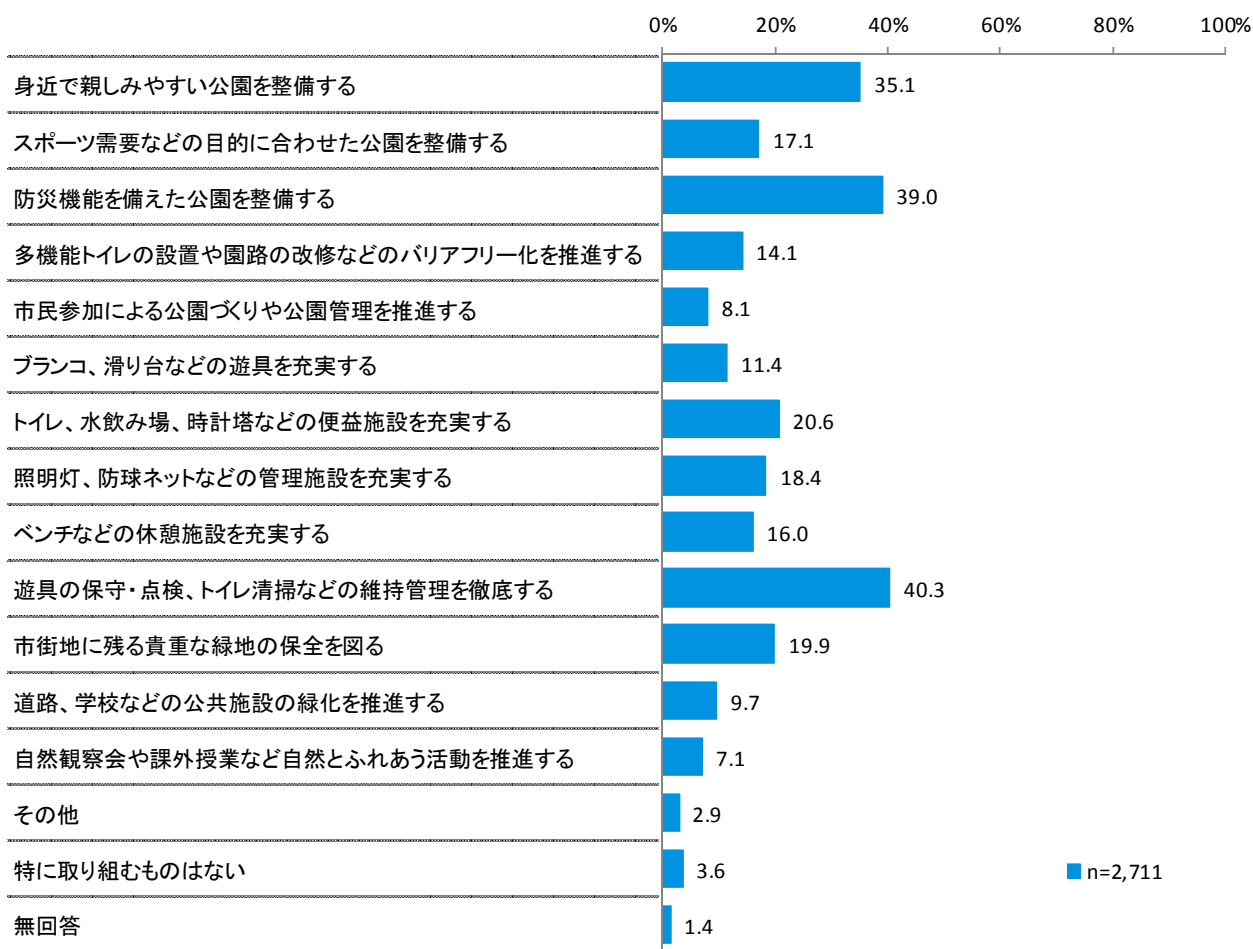
3 公園の整備や緑地の保全のために行政が取り組むべきこと

問 12 あなたは、公園の整備や緑地の保全について、行政がどのようなことに取り組むべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

- ◆ 公園の整備や緑地の保全について行政が取り組むべきことは「遊具の保守・点検、トイレ清掃などの維持管理を徹底する」が40.3%、「防災機能を備えた公園を整備する」が39.0%

公園の整備や緑地の保全について行政が取り組むべきことは、「遊具の保守・点検、トイレ清掃などの維持管理を徹底する」(40.3%)が最も高く、次いで「防災機能を備えた公園を整備する」(39.0%)、「身近で親しみやすい公園を整備する」(35.1%)の順となっている。【図表 31】

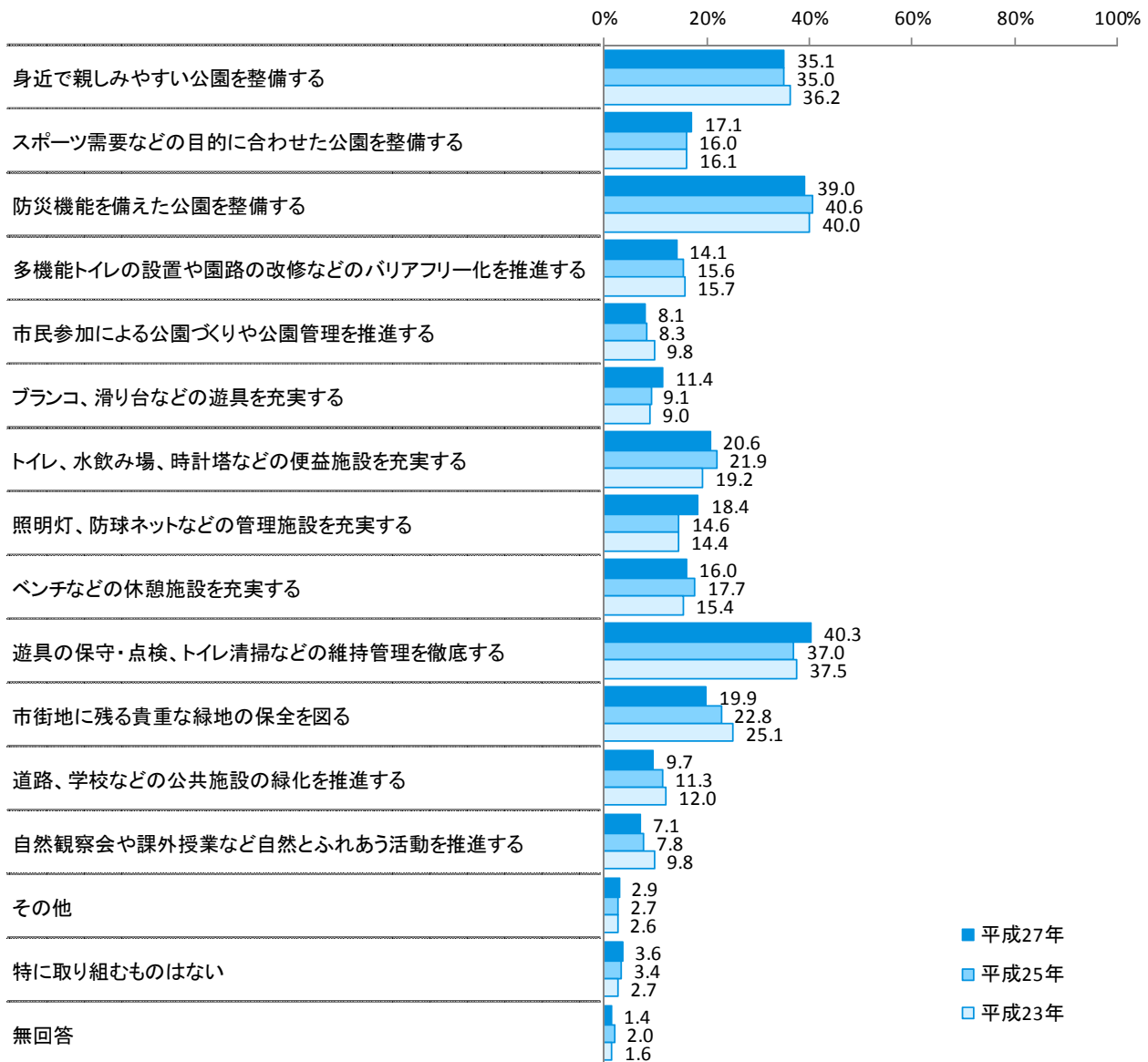
図表 31 公園の整備や緑地の保全のために行政が取り組むべきこと



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「照明灯、防球ネットなどの管理施設を充実する」(3.8ポイント増)、「遊具の保守・点検、トイレ清掃などの維持管理を徹底する」(3.3ポイント増)となっている。一方、前回調査と比較して大きく減少した項目はない。

【図表 32】

図表 32 公園の整備や緑地の保全のために行政が取り組むべきこと（経年比較）



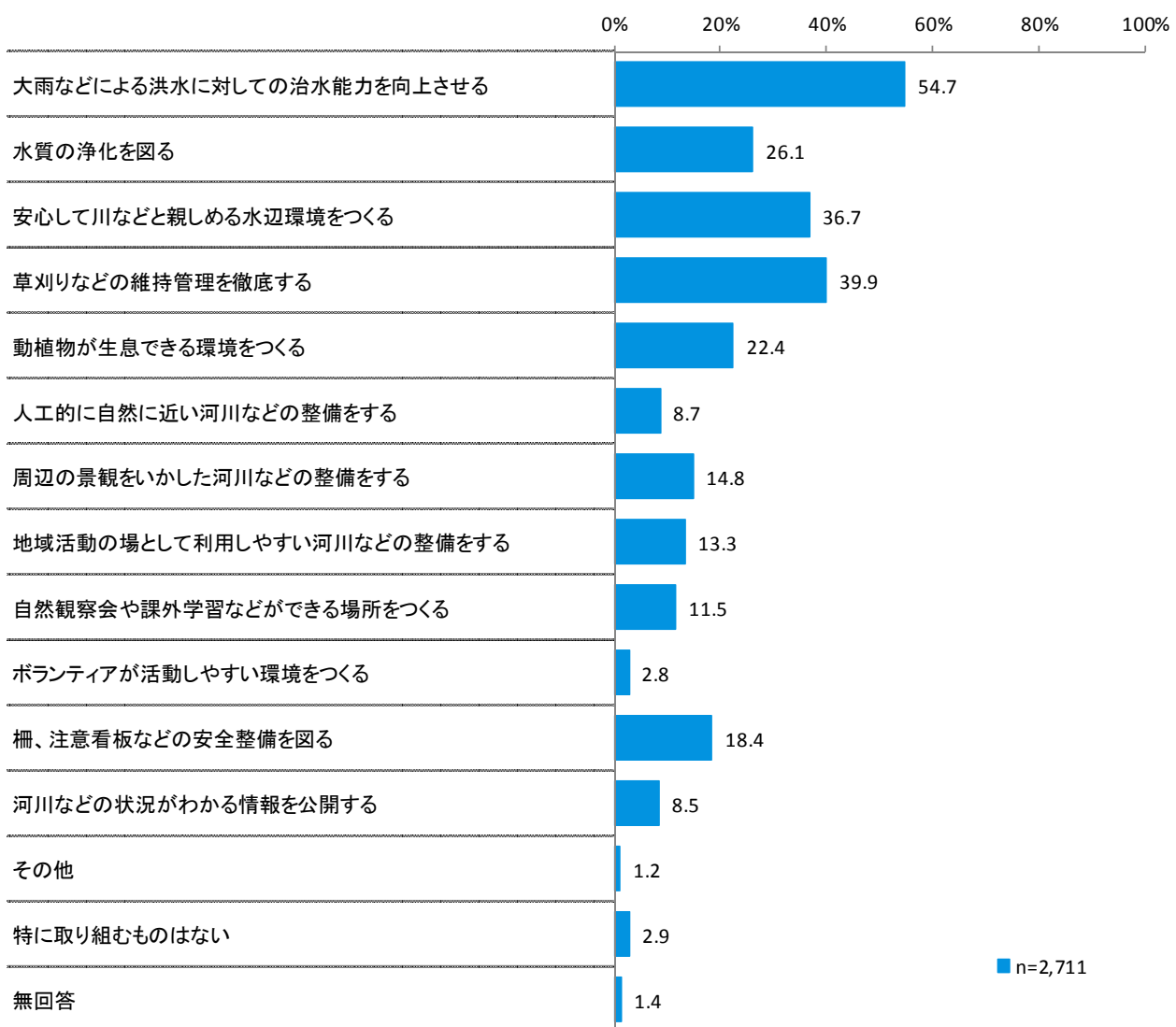
4 河川の整備のために行政が取り組むべきこと

問 13 あなたは、河川の整備について、行政が今後どのようなことに取り組むべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

◆ 河川の整備について行政が取り組むべきことは「大雨などによる洪水に対しての治水能力を向上させる」が54.7%、「草刈りなどの維持管理を徹底する」が39.9%

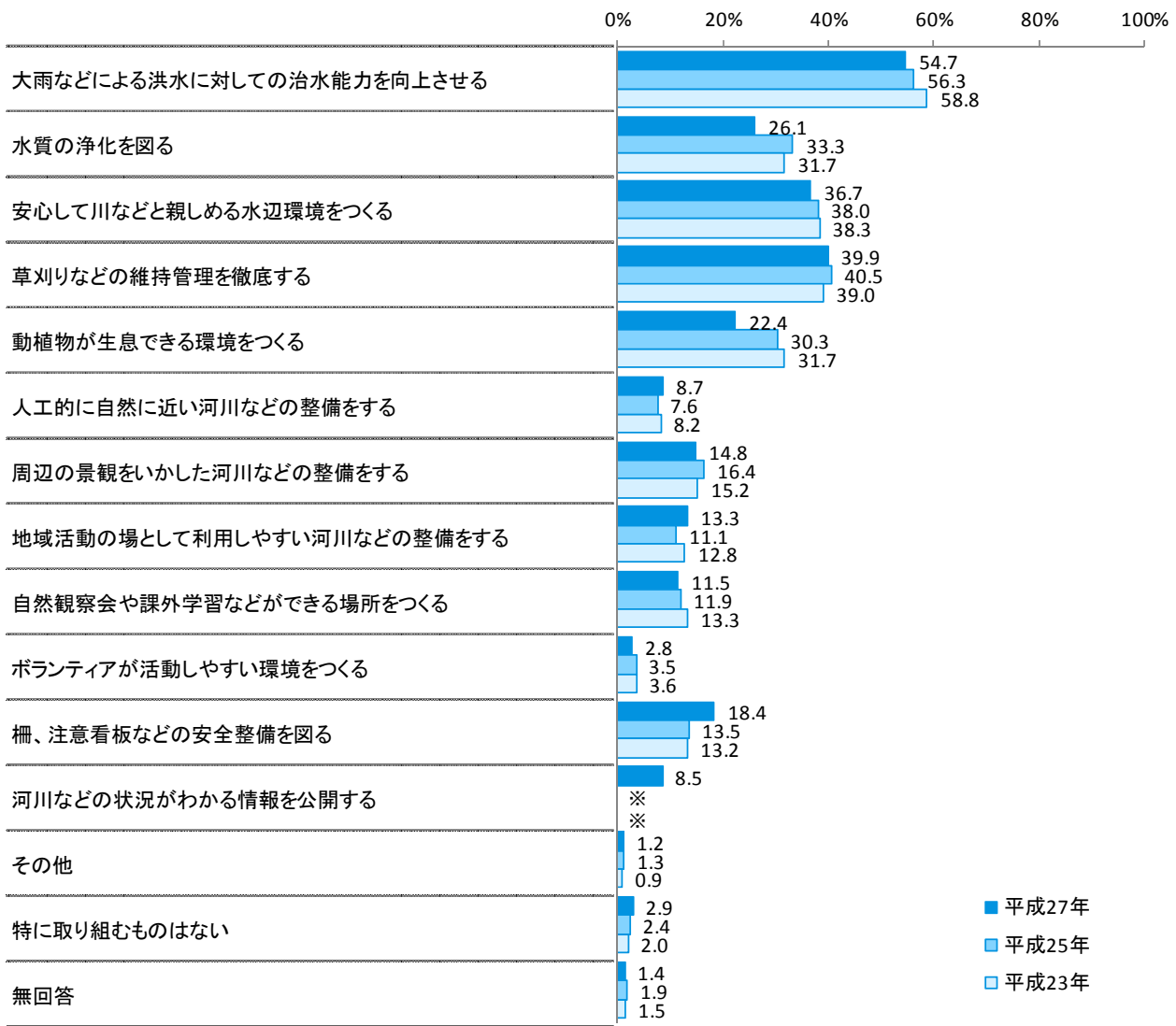
河川の整備について行政が取り組むべきことは、「大雨などによる洪水に対しての治水能力を向上させる」(54.7%)が最も高く、「草刈りなどの維持管理を徹底する」(39.9%)、「安心して川などと親しめる水辺環境をつくる」(36.7%)の順となっている。【図表 33】

図表 33 河川の整備のために行政が取り組むべきこと



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「柵、注意看板などの安全整備を図る」(4.9ポイント増)、などとなっている。一方、前回調査と比較して大きく減少した項目は、「動植物が生息できる環境をつくる」(7.9ポイント減)、「水質の浄化を図る」(7.2ポイント減)となっている。【図表 34】

図表 34 河川の整備のために行政が取り組むべきこと（経年比較）



※調査項目に含まれず

6 教育・文化について

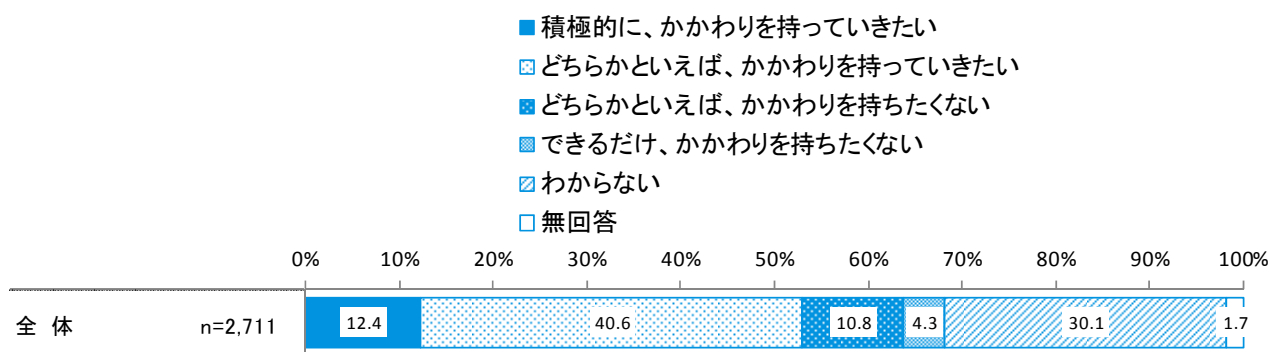
1 地域づくりに向けた学校と地域とのかかわり

問 14 学校と地域が協力して地域づくりをしていくために、「学校の日」などを実施しています。あなたは、協力して地域づくりをするために、学校とかわりを持っていきたくいと思いませんか。次の中からあてはまるものを1つ選んで○印をつけてください。

◆ 地域づくりに向けた学校と地域とのかわりについて“かわりを持っていきたくい”が53.0%、“かわりを持ちたくない”が15.1%

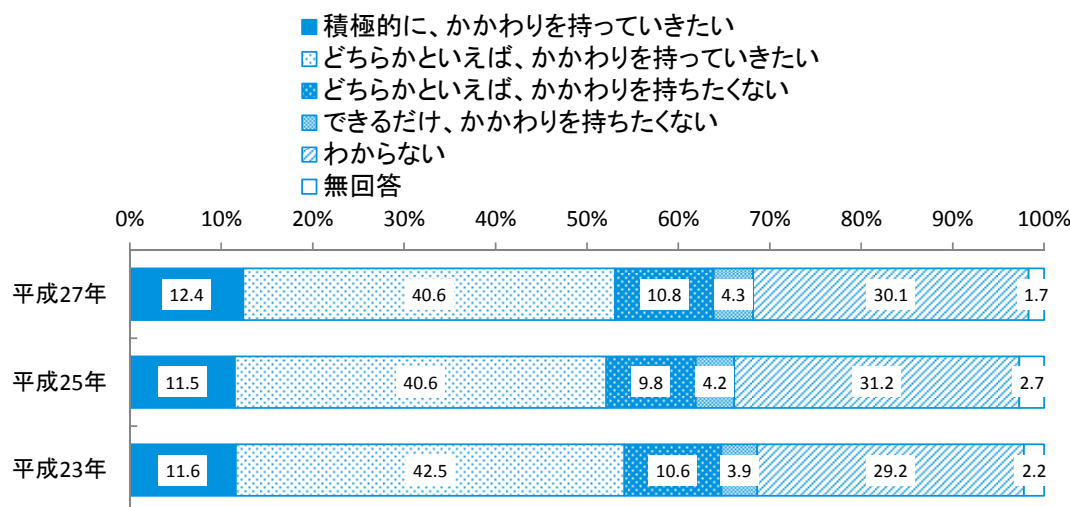
地域づくりに向けた学校と地域とのかわりについて、「積極的に、かわりを持っていきたくい」(12.4%)と「どちらかといえは、かわりを持っていきたくい」(40.6%)をあわせた“かわりを持っていきたくい”が53.0%となっている。一方、「どちらかといえは、かわりを持ちたくない」(10.8%)と「できるだけ、かわりを持ちたくない」(4.3%)をあわせた“かわりを持ちたくない”が15.1%となっている。【図表 35】

図表 35 地域づくりに向けた学校と地域とのかわり



経年比較でみると、前回調査と比較して、大きな増減はみられない。【図表 36】

図表 36 地域づくりに向けた学校と地域とのかわり（経年比較）



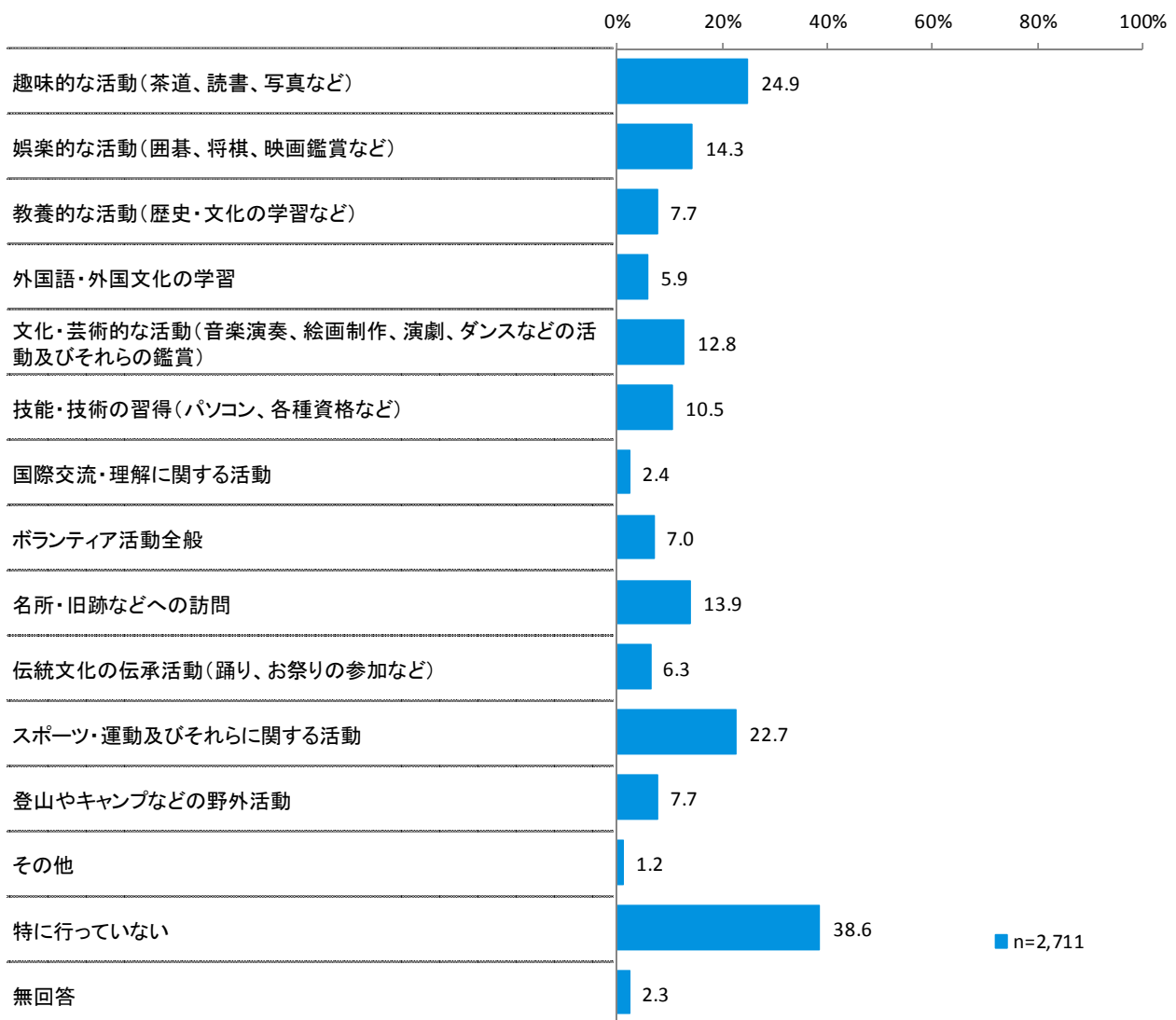
2 生涯学習の活動状況

問 15 あなたは、生涯学習としてどのような活動をしていますか。次の中からあてはまるものすべてに○印をつけてください。

◆ 生涯学習の活動状況は「特に行っていない」が38.6%

生涯学習の活動状況は、「特に行っていない」(38.6%)が最も高く、次いで「趣味的な活動(茶道、読書、写真など)」(24.9%)、「スポーツ・運動及びそれらに関する活動」(22.7%)の順となっている。【図表 37】

図表 37 生涯学習の活動状況



3 スポーツや運動の頻度

問 16 あなたは、どの程度の頻度でスポーツや運動をしていますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○印をつけてください。

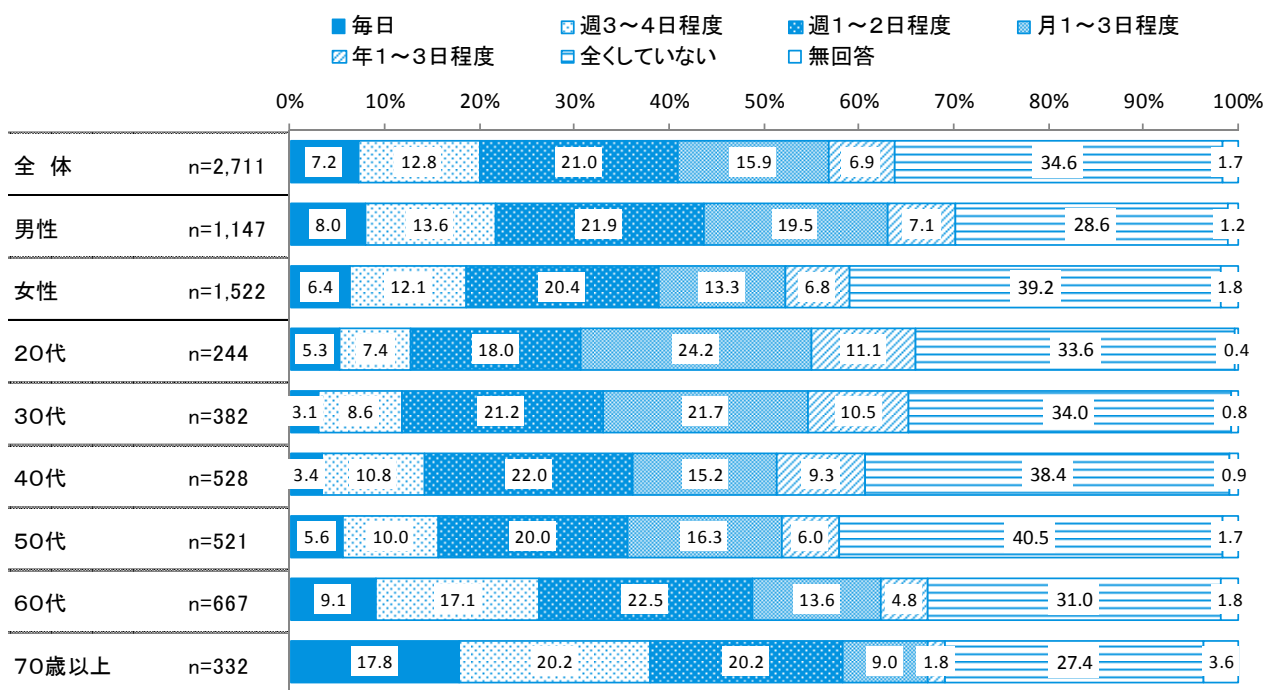
◆ スポーツや運動の頻度は「全くしていない」が34.6%

スポーツや運動の頻度は、「全くしていない」(34.6%)が最も高く、次いで「週1～2日程度」(21.0%)、「月1～3日程度」(15.9%)の順となっている。

性別でみると、最も差がある項目「全くしていない」では「女性」(39.2%)が「男性」(28.6%)を約10ポイント上回っている。

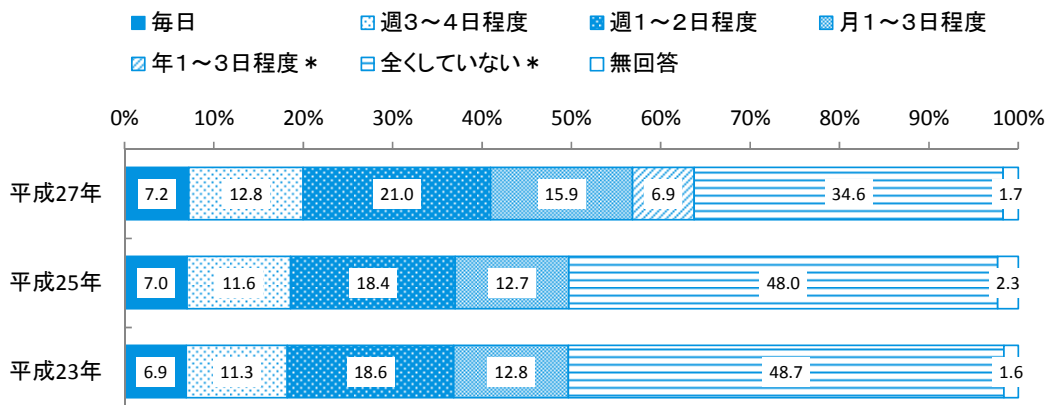
年齢別でみると、全体平均と比較して、「毎日」は「70歳以上」が17.8%と高く、「30代」、「40代」は3%台と低くなっている。一方、「全くしていない」は、「50代」(40.5%)の割合が高く、「70歳以上」(27.4%)の割合が低くなっている。【図表 38】

図表 38 スポーツや運動の頻度



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「月1～3日程度」(3.2ポイント増)などとなっている。【図表 39】

図表 39 スポーツや運動の頻度 (経年比較)



* 「年1～3日程度」「全くしていない」は、前回「ほとんどしていない」と表記。

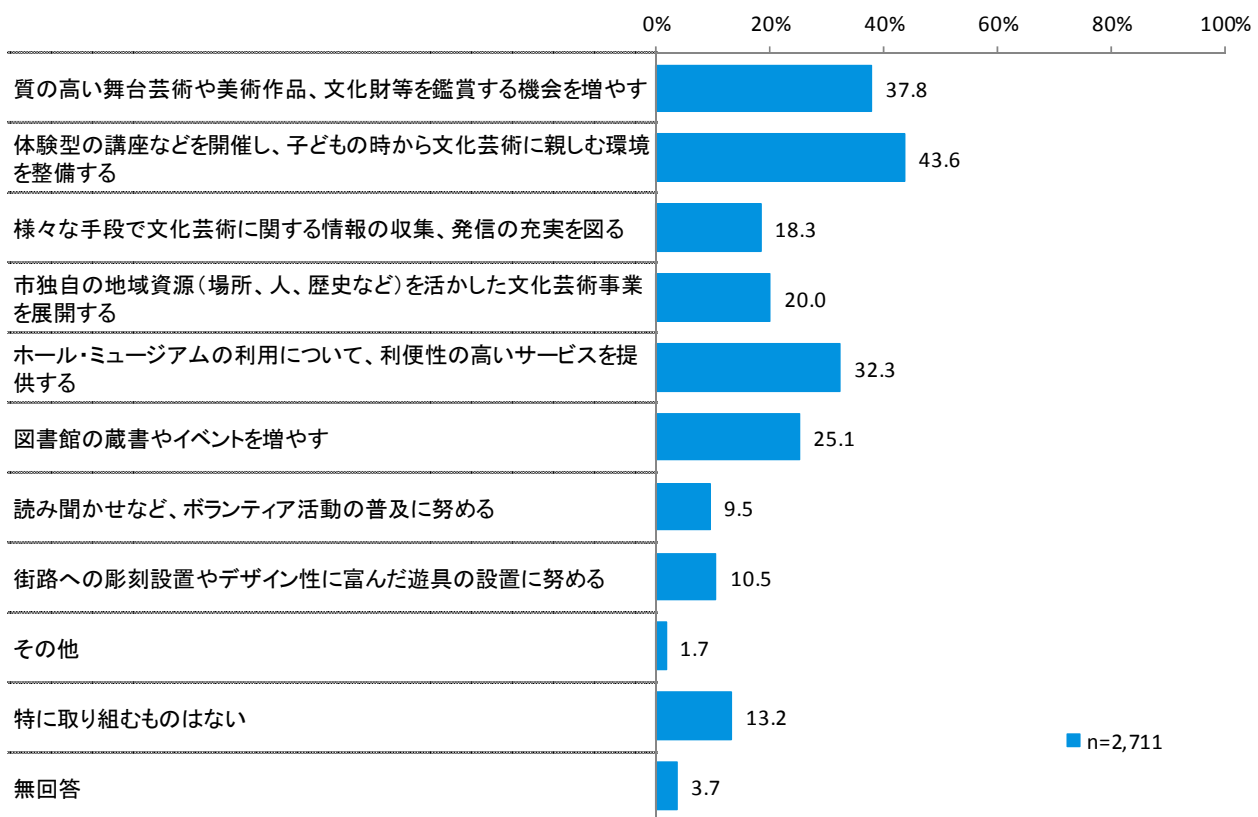
4 文化・芸術の振興のために行政が取り組むべきこと

問 17 あなたは、文化・芸術の振興のために、行政が今後どのようなことに取り組むべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

- ◆ 文化・芸術の振興のために行政が取り組むべきことは「体験型の講座などを開催し、子どもの時から文化芸術に親しむ環境を整備する」が43.6%

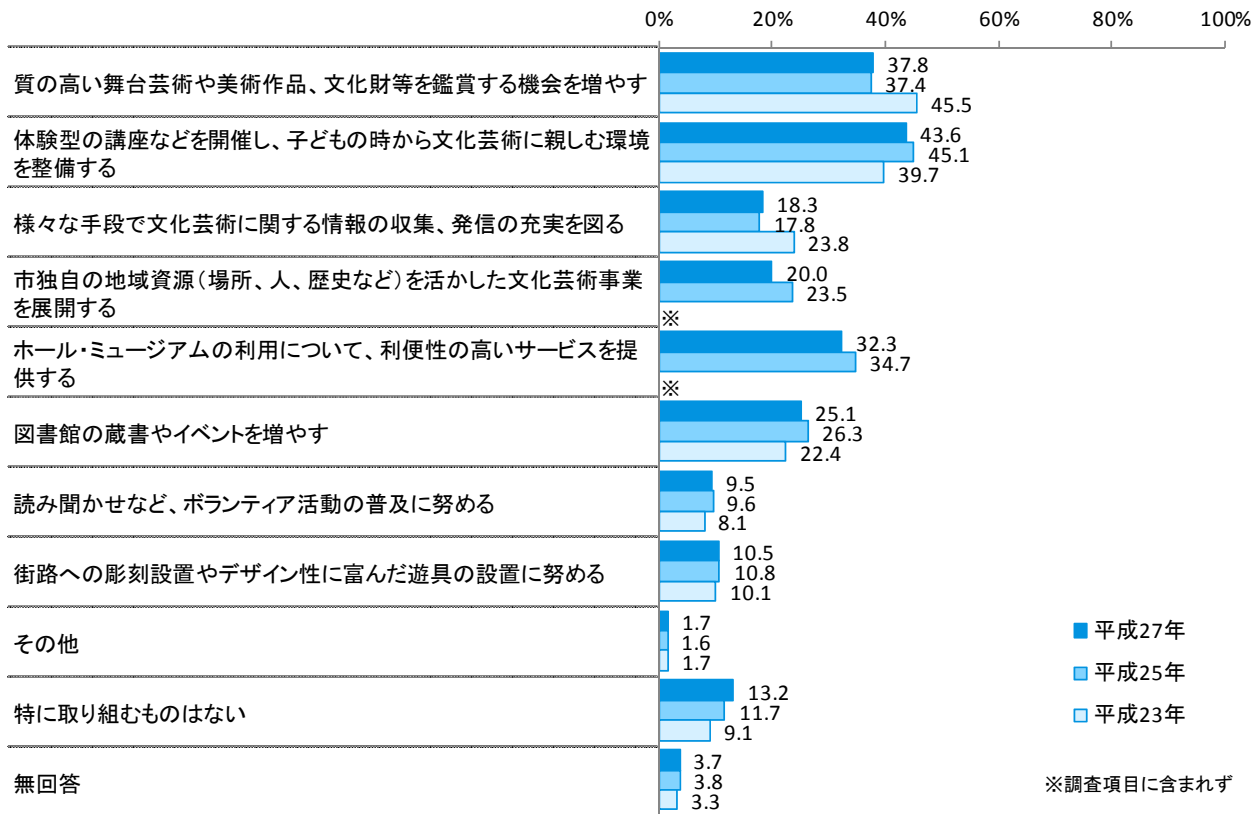
文化・芸術の振興のために行政が取り組むべきことは、「体験型の講座などを開催し、子どもの時から文化芸術に親しむ環境を整備する」(43.6%)が最も高く、次いで「質の高い舞台芸術や美術作品、文化財等を鑑賞する機会を増やす」(37.8%)、「ホール・ミュージアムの利用について、利便性の高いサービスを提供する」(32.3%)の順となっている。【図表 40】

図表 40 文化・芸術の振興のために行政が取り組むべきこと



経年比較でみると、前回調査と比較して減少した項目は、「市独自の地域資源（場所、人、歴史など）を活かした文化芸術事業を展開する」（3.5 ポイント減）などとなっている。一方、前回調査と比較して大きく増加した項目はない。【図表 41】

図表 41 文化・芸術の振興のために行政が取り組むべきこと（経年比較）



7 産業・雇用について

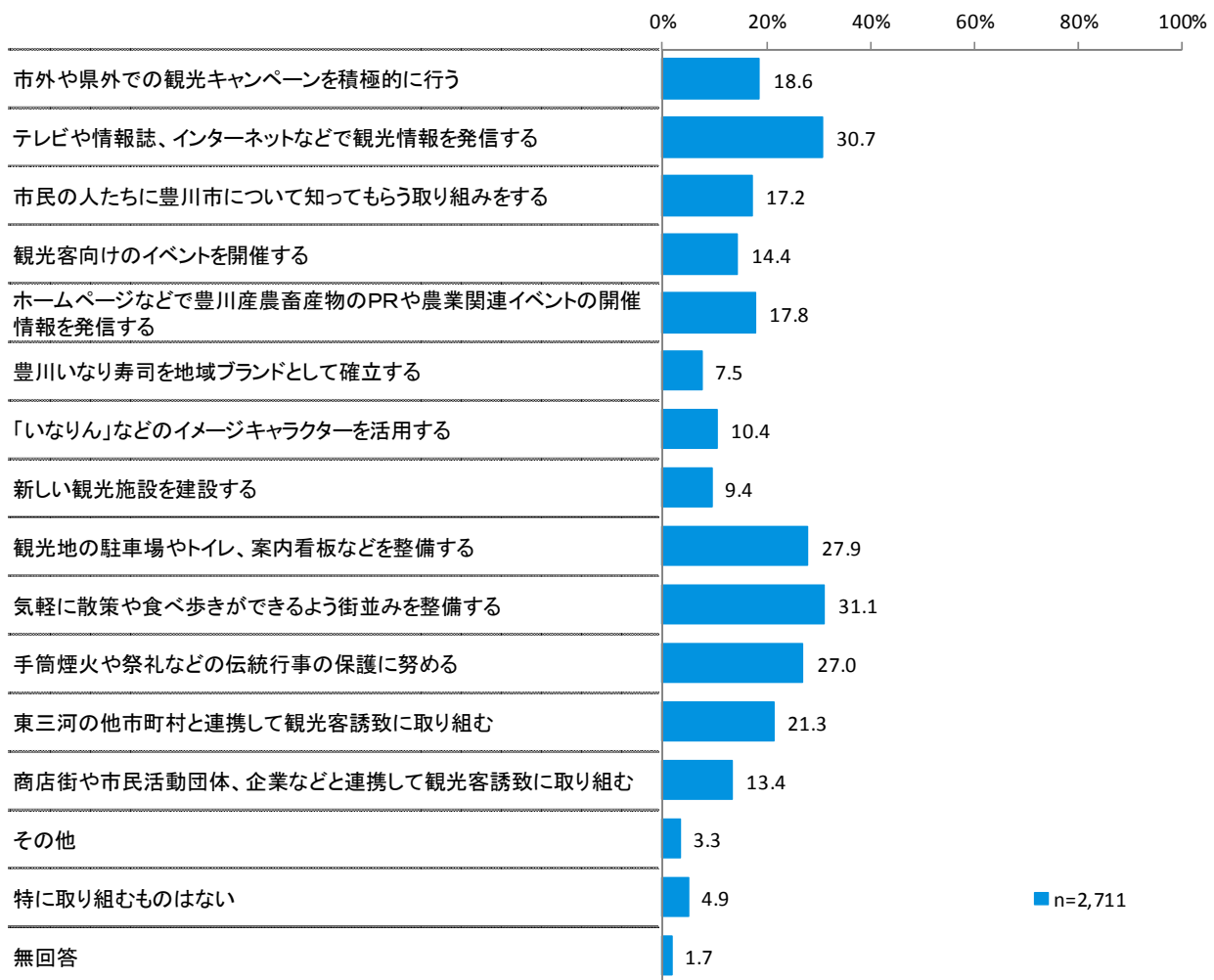
1 観光客増加のために取り組むべきこと

問 18 あなたは、多くの観光客の方に豊川市に来ていただくために、どのようなことに取り組むべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

◆ **観光客増加のために取り組むべきことは「街並みの整備」、「観光情報の発信」、「駐車場等の整備」、「伝統行事の保護」など**

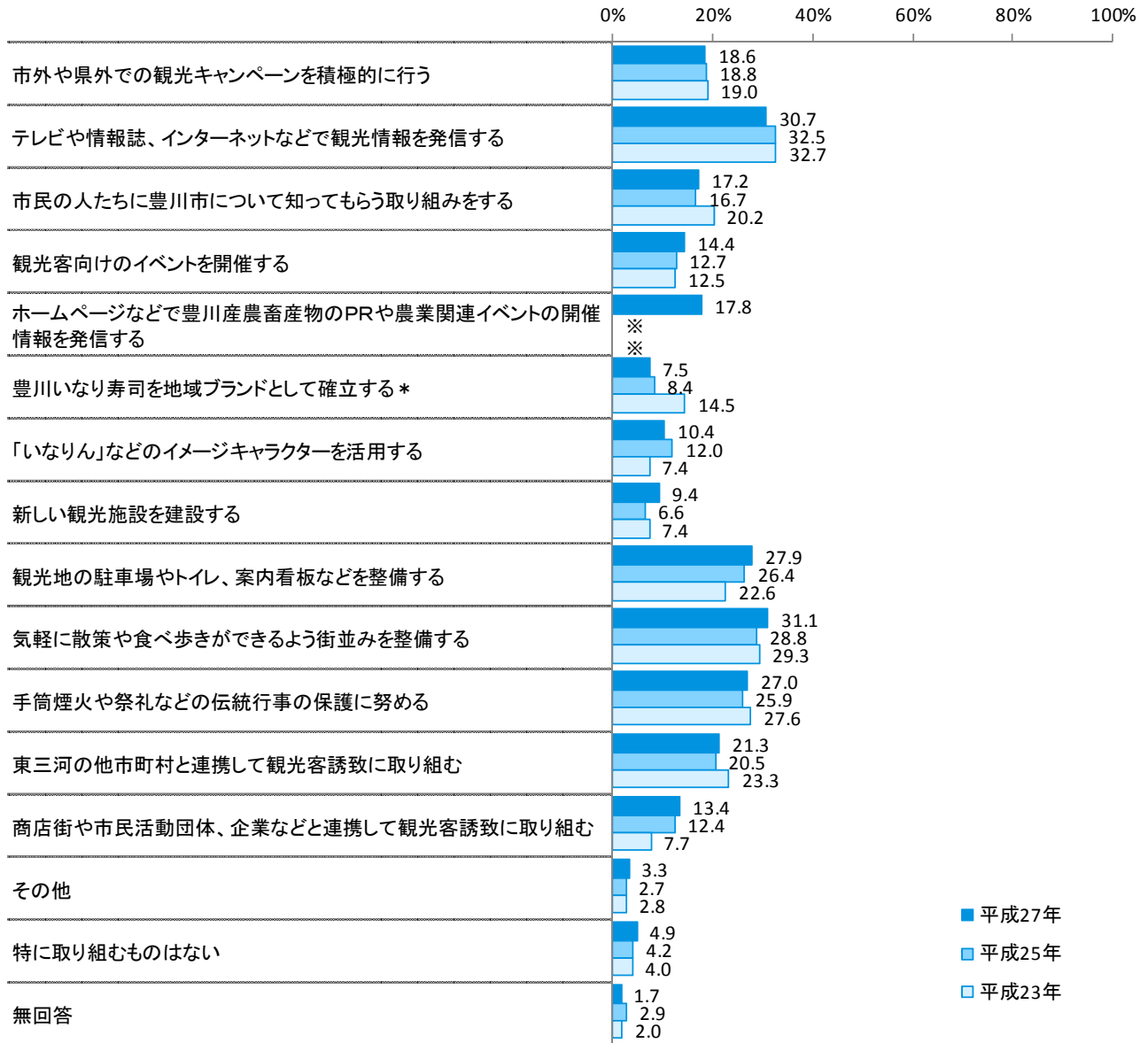
観光客増加のために取り組むべきことは、「気軽に散策や食べ歩きができるよう街並みを整備する」(31.1%)が最も高く、次いで「テレビや情報誌、インターネットなどで観光情報を発信する」(30.7%)、「観光地の駐車場やトイレ、案内看板などを整備する」(27.9%)、「手筒煙火や祭礼などの伝統行事の保護に努める」(27.0%)の順となっている。【図表 42】

図表 42 観光客増加のために取り組むべきこと



経年比較でみると、前回調査と比較して、大きな増減はみられない。【図表 43】

図表 43 観光客増加のために取り組むべきこと（経年比較）



※調査項目に含まれず

* 「豊川いなり寿司を地域ブランドとして確立する」は、前回「いなり寿司を地域ブランドとして確立する」と表記。

8 地域・行政について

1 まちづくり活動への参加状況

問 19 あなたは、まちづくり活動（町内会などの地域活動、NPO活動、ボランティア・市民活動など）に参加したことがありますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○印をつけてください。

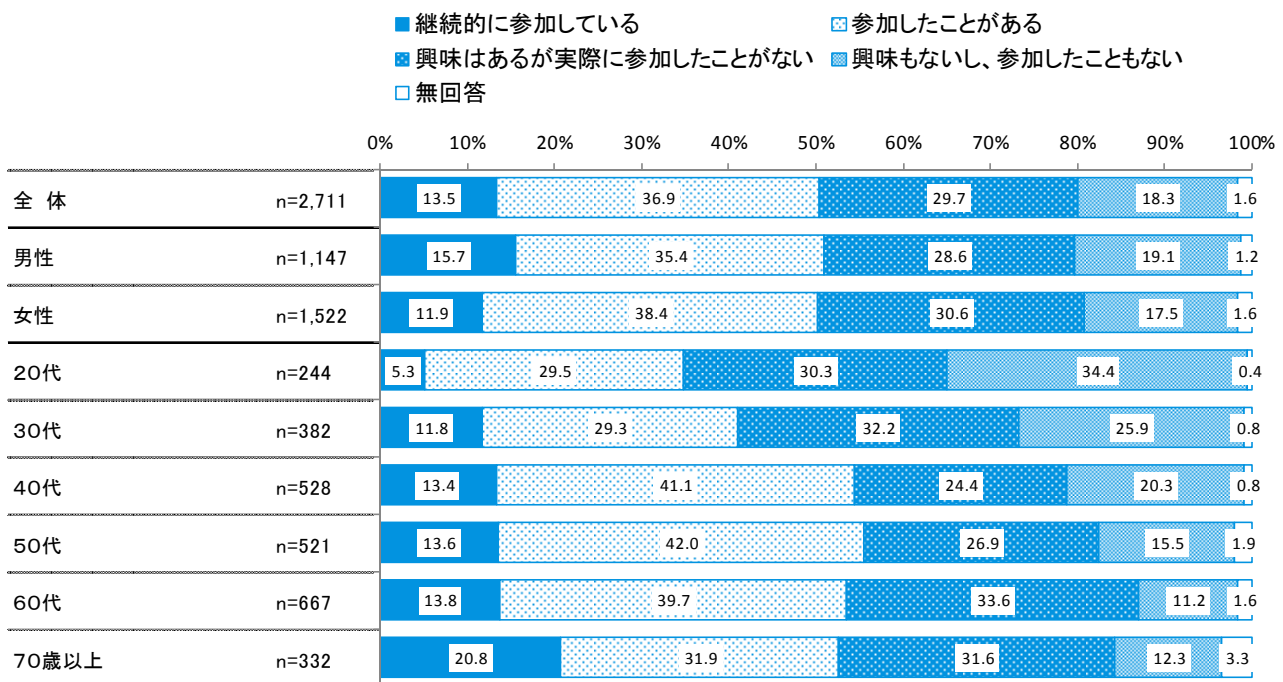
◆ まちづくり活動への参加状況は“参加したことがある”が50.4%、“参加したことがない”が48.0%

まちづくり活動への参加状況は、「継続的に参加している」（13.5%）と「参加したことがある」（36.9%）をあわせた“参加したことがある”は50.4%、「興味はあるが実際に参加したことがない」（29.7%）と「興味もないし、参加したこともない」（18.3%）をあわせた“参加したことがない”は48.0%となっている。

性別でみると、最も差がある項目「継続的に参加している」では「男性」（15.7%）が「女性」（11.9%）を3.8ポイント上回っている。

年齢別でみると、「20代」、「30代」では“参加したことがない”割合が“参加したことがある”を上回っている。【図表 44】

図表 44 まちづくり活動への参加状況



2 男女共同参画

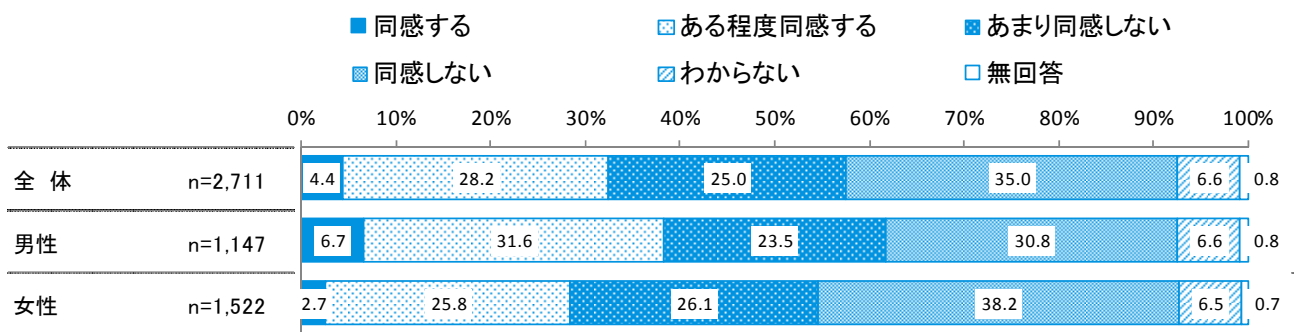
問 20 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○印をつけてください。

◆ 「男は仕事、女は家庭」という考え方について“同感する”が32.6%、“同感しない”が60.0%

「男は仕事、女は家庭」という考え方について「同感する」(4.4%)と「ある程度同感する」(28.2%)をあわせた“同感する”が32.6%、「あまり同感しない」(25.0%)と「同感しない」(35.0%)をあわせた“同感しない”が60.0%となっている。

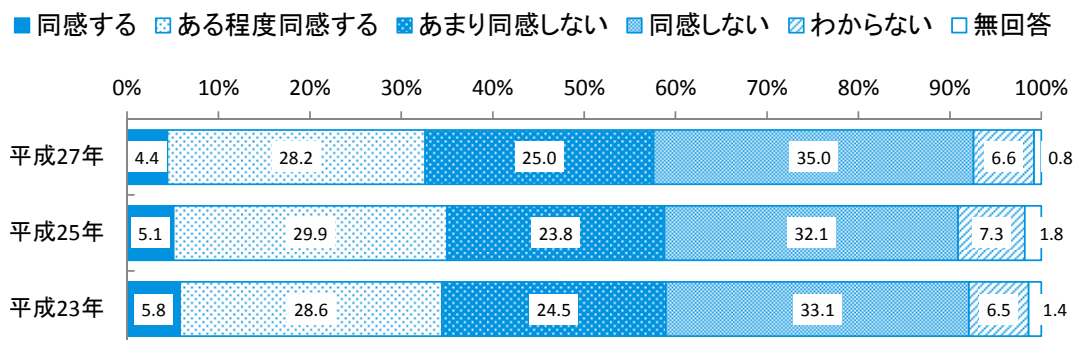
性別でみると、「同感しない」では「女性」(64.3%)が「男性」(54.3%)を10ポイント上回っている。【図表 45】

図表 45 男女共同参画



経年比較でみると、前回調査と比較して、「同感しない」が4.1ポイント増加している。【図表 46】

図表 46 男女共同参画（経年比較）



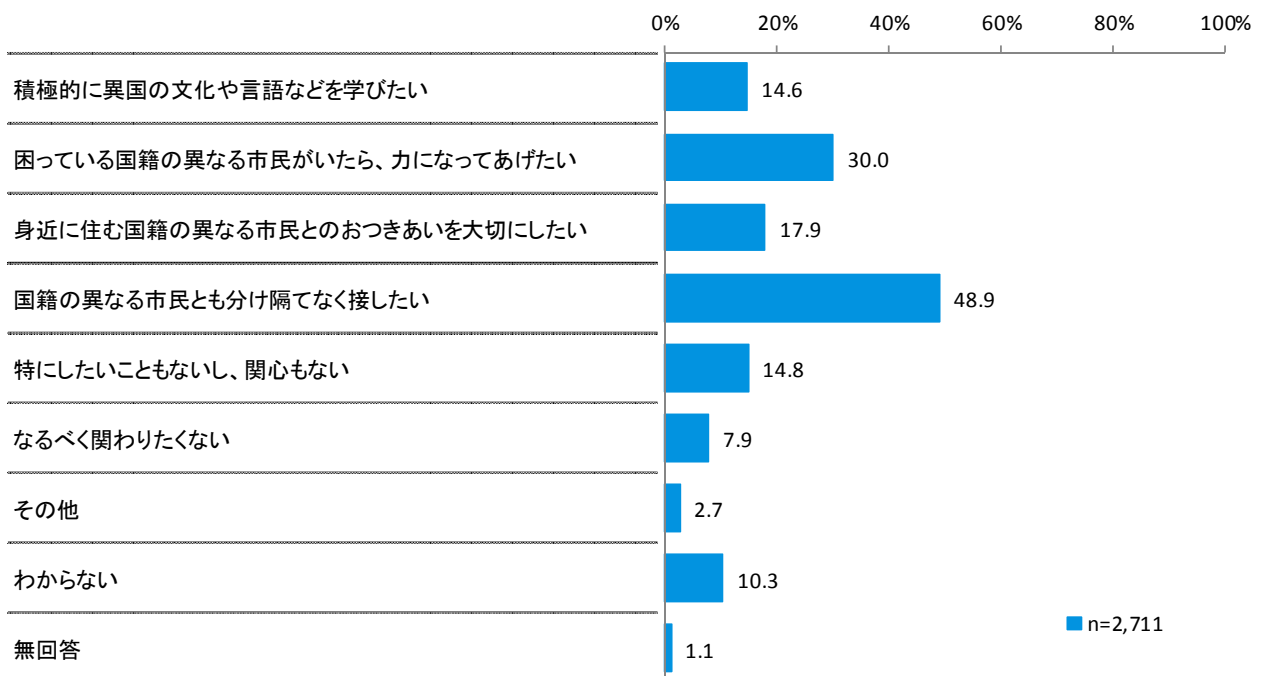
3 外国人とのつきあい方

問 21 現在、豊川市には、多くの外国人市民が暮らしています。日本人と外国人が、同じ豊川市民として快適に暮らしていける多文化共生社会にするために、あなたは、どのようなことができると思いますか。次の中からあてはまるものを2つまで選んで○印をつけてください。

◆ 外国人とのつきあい方は「国籍の異なる市民とも分け隔てなく接したい」が48.9%

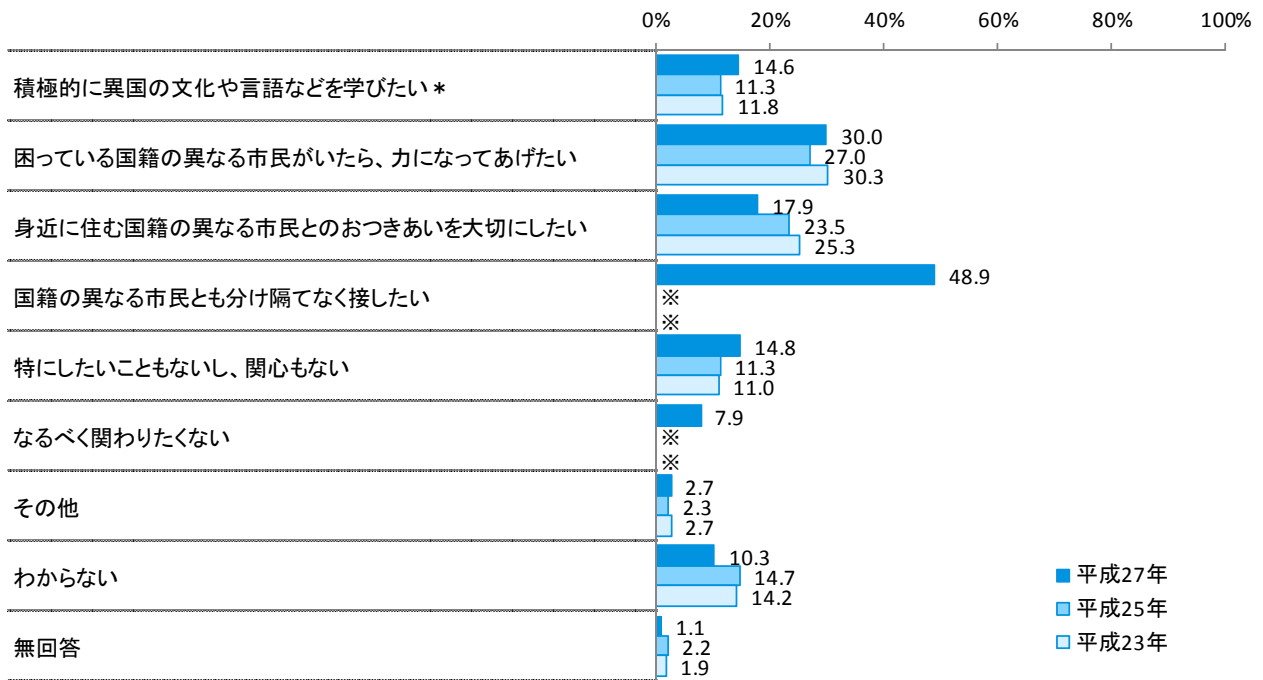
外国人とのつきあい方は「国籍の異なる市民とも分け隔てなく接したい」（48.9%）が最も高くなっており、次いで「困っている国籍の異なる市民がいたら、力になってあげたい」（30.0%）、「身近に住む国籍の異なる市民とのつきあいを大切にしたい」（17.9%）の順となっている。【図表 47】

図表 47 外国人とのつきあい方



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は、「特にしたいこともないし、関心もない」(3.5 ポイント増)、「積極的に異国の文化や言語などを学びたい」(3.3 ポイント増；前回「国際交流協会の講座やイベントに参加して、異国の文化などについて学びたい」と表記)などとなっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「身近に住む国籍の異なる市民とのつきあいを大切にしたい」(5.6 ポイント減)、「わからない」(4.4 ポイント減)となっている。【図表 48】

図表 48 外国人とのつきあい方（経年比較）



※調査項目に含まれず

* 「積極的に異国の文化や言語などを学びたい」は、前回「国際交流協会の講座やイベントに参加して、異国の文化などについて学びたい」と表記。

4 広報紙等の閲読率

問 22 あなたは、市が配布している広報紙や議会だよりなどをどの程度読んでいますか。次の中からそれぞれにあてはまるものを1つずつ選んで○印をつけてください。

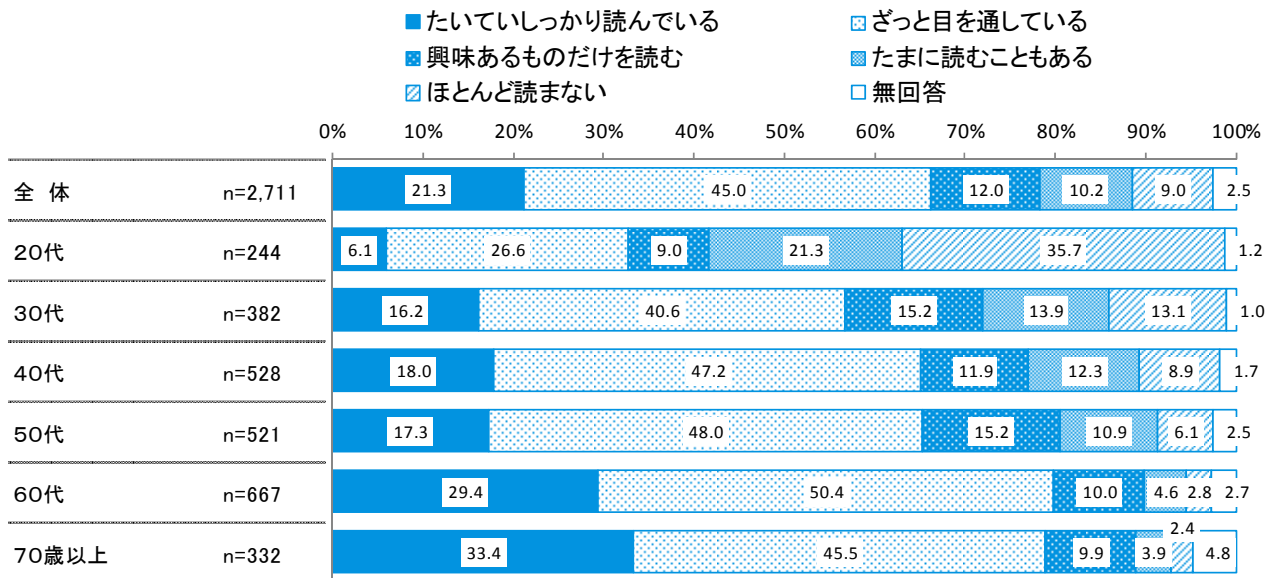
①広報とよかわ

◆ 広報とよかわの閲読率は「たいていしっかり読んでいる」が21.3%、「ほとんど読まない」が9.0%

広報とよかわの閲読率は「ざっと目を通してている」(45.0%)が最も高く、次いで「たいていしっかり読んでいる」(21.3%)、「興味のあるものだけを読む」(12.0%)、「たまに読むこともある」(10.2%)、「ほとんど読まない」(9.0%)となっている。

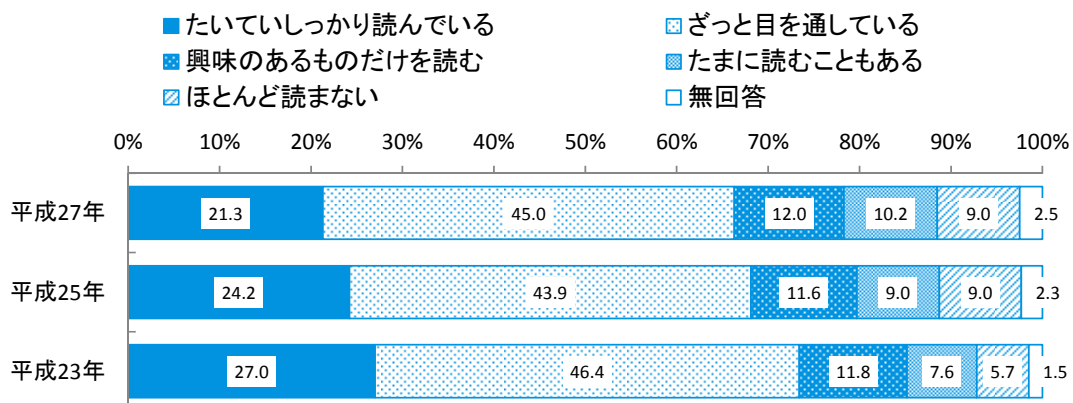
年齢別でみると、「20代」では「ほとんど読まない」が35.7%と高くなっている。また、年齢が高くなるほど、「たいていしっかり読んでいる」の割合が概ね高く、「70歳以上」では33.4%となっている。【図表 49】

図表 49 広報紙等の閲読率「広報とよかわ」



経年比較でみると、「たいていしっかり読んでいる」が減少傾向にあり、前回調査と比較して2.9ポイント減少している。【図表 50】

図表 50 広報紙等の閲読率「広報とよかわ」(経年比較)



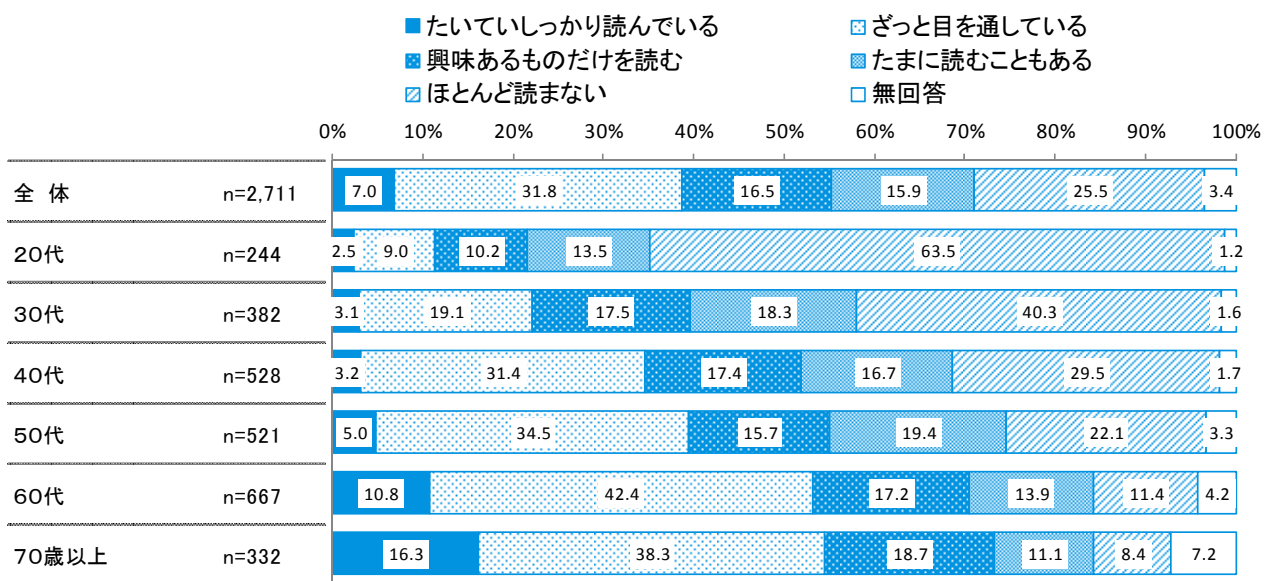
②議会だより

◆ 議会だよりの閲読率は「たいていしっかり読んでいる」が7.0%、「ほとんど読まない」が25.5%

議会だよりの閲読率は「ざっと目を通している」(31.8%)が最も高く、次いで「ほとんど読まない」(25.5%)、「興味のあるものだけを読む」(16.5%)、「たまに読むこともある」(15.9%)、「たいていしっかり読んでいる」(7.0%)となっている。

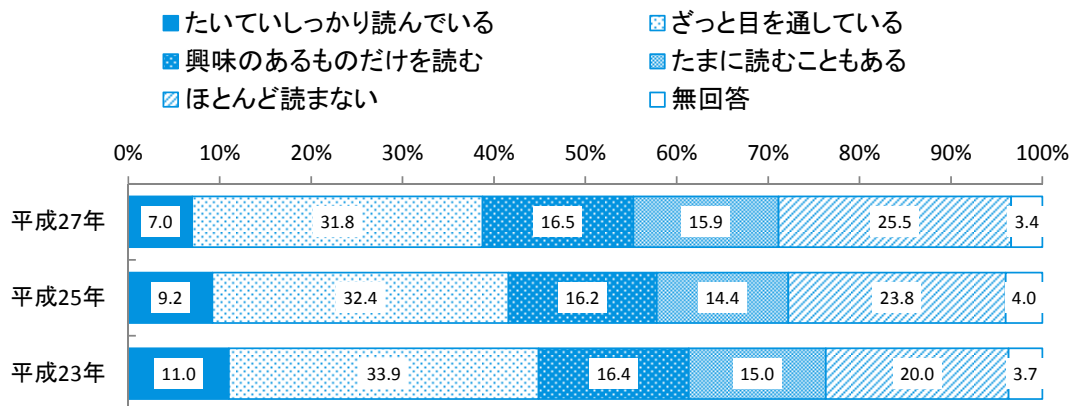
年齢別でみると、年齢が高くなるほど、「たいていしっかり読んでいる」の割合が高く、「ほとんど読まない」の割合が低くなっている。「ほとんど読まない」では「70歳以上」(8.4%)と「20代」(63.5%)の差が55.1ポイントと大きくなっている。【図表 51】

図表 51 広報紙等の閲読率「議会だより」



経年比較でみると、大きな変化はみられない。【図表 52】

図表 52 広報紙等の閲読率「議会だより」(経年比較)



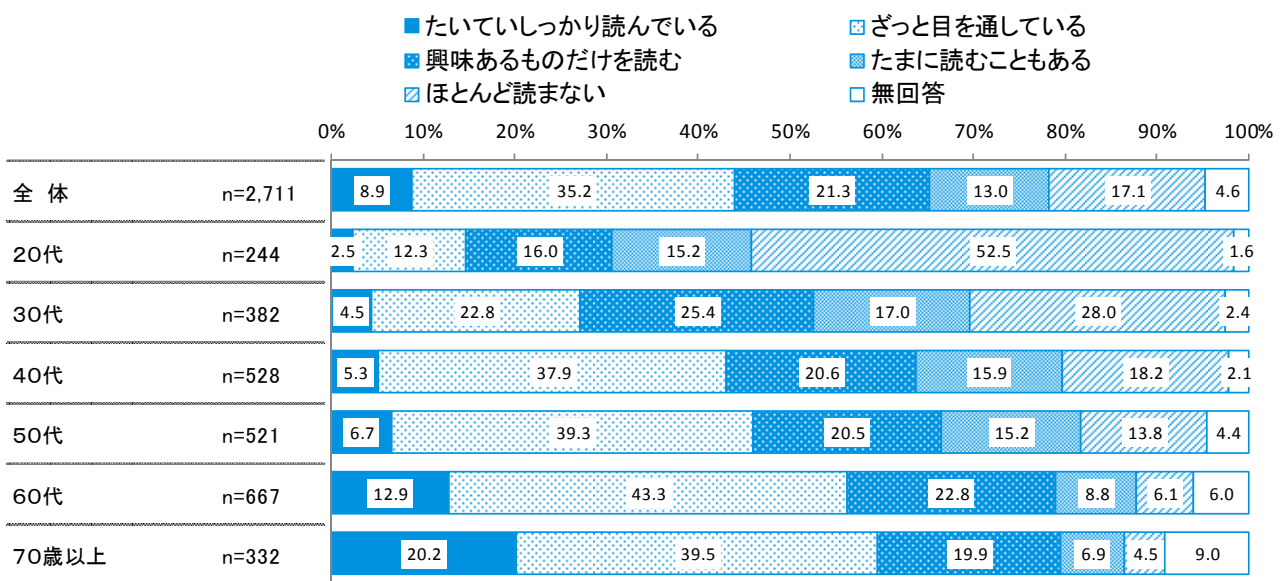
③その他のお知らせ

◆ その他のお知らせの閲読率は「たいていしっかり読んでいる」が8.9%、「ほとんど読まない」が17.1%

その他のお知らせの閲読率は「ざっと目を通してている」(35.2%)が最も高く、次いで「興味のあるものだけを読む」(21.3%)、「ほとんど読まない」(17.1%)、「たまに読むこともある」(13.0%)、「たいていしっかり読んでいる」(8.9%)となっている。

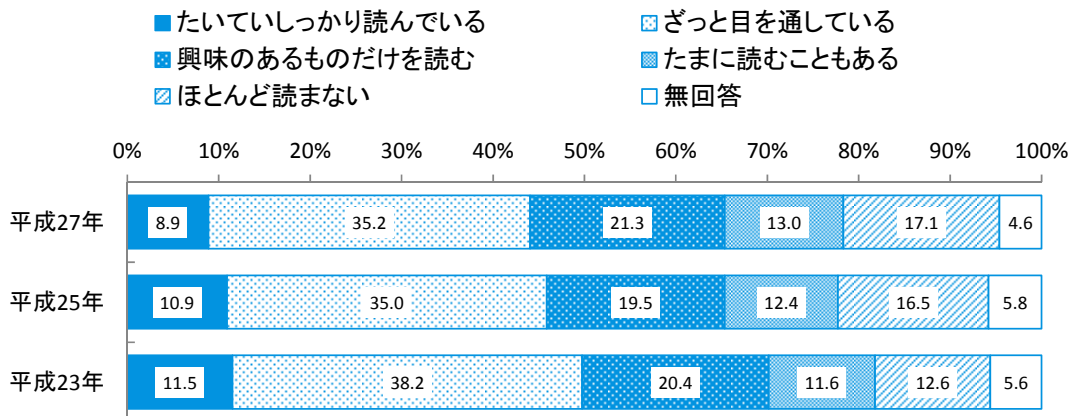
年齢別でみると、年齢が高くなるほど、「たいていしっかり読んでいる」の割合が高く、「ほとんど読まない」の割合が低くなっている。「ほとんど読まない」では「70歳以上」(4.5%)と「20代」(52.5%)の差が48.0ポイントと大きくなっている。【図表 53】

図表 53 広報紙等の閲読率「その他のお知らせ」



経年比較でみると、大きな変化はみられない。【図表 54】

図表 54 広報紙等の閲読率「その他のお知らせ」(経年比較)

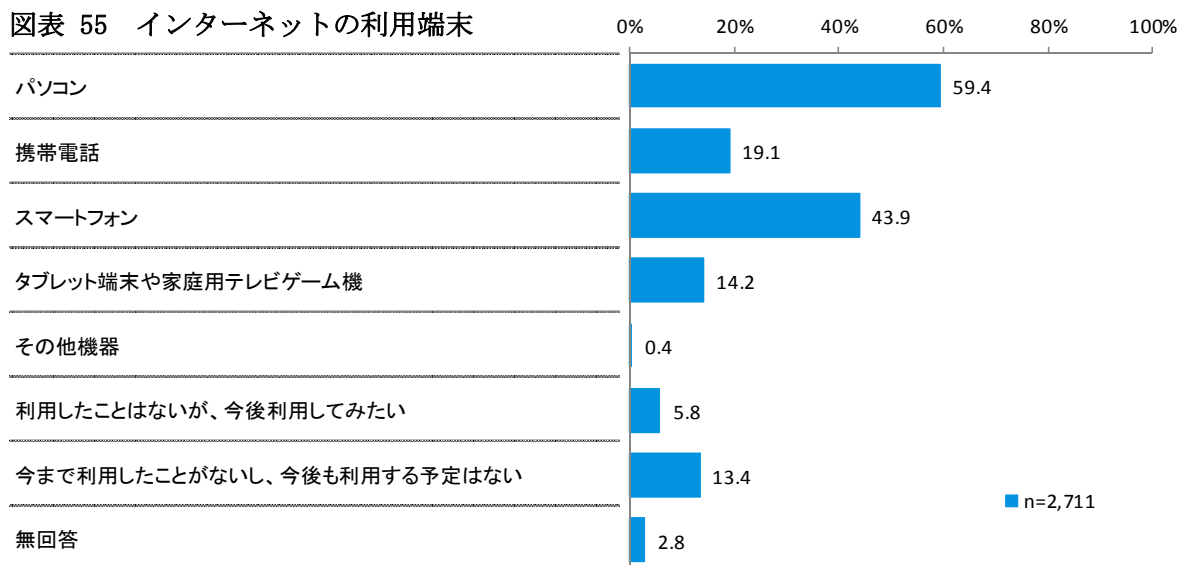


5 インターネットの利用端末

問 23 あなたは、インターネットをどのような端末で利用していますか。次の中からあてはまるものすべてに○印をつけてください。

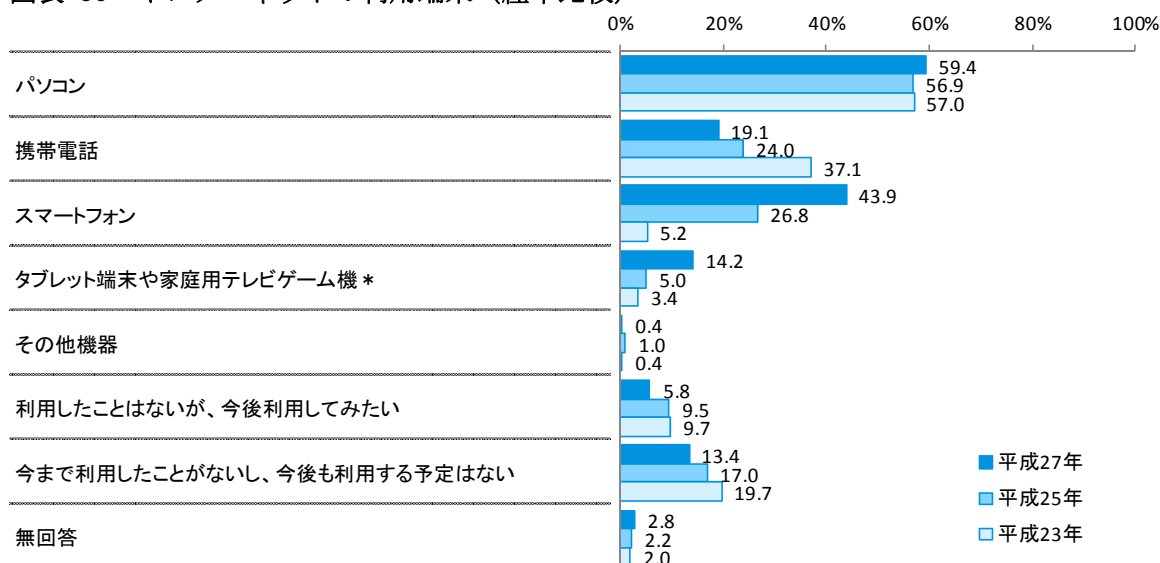
◆ インターネットの利用端末は「パソコン」が59.4%、「スマートフォン」が43.9%

インターネットの利用端末は「パソコン」(59.4%)が最も高く、次いで「スマートフォン」(43.9%)、「携帯電話」(19.1%)、「タブレット端末や家庭用テレビゲーム機」(14.2%)、「今まで利用したことがないし、今後も利用する予定はない」(13.4%)の順となっている。【図表 55】



経年比較でみると、前回調査と比較して増加した項目は「スマートフォン」(17.1ポイント増)、「タブレット端末や家庭用テレビゲーム機」(9.2ポイント増；前回「携帯情報端末や家庭用テレビゲーム機」と表記)となっている。一方、前回調査と比較して減少した項目は、「携帯電話」(4.9ポイント減)、「利用したことはないが、今後利用してみたい」(3.7ポイント減)、「今まで利用したことがないし、今後も利用する予定はない」(3.6ポイント減)などとなっている。【図表 56】

図表 56 インターネットの利用端末 (経年比較)



*「タブレット端末や家庭用テレビゲーム機」は、前回「携帯情報端末や家庭用テレビゲーム機」と表記。

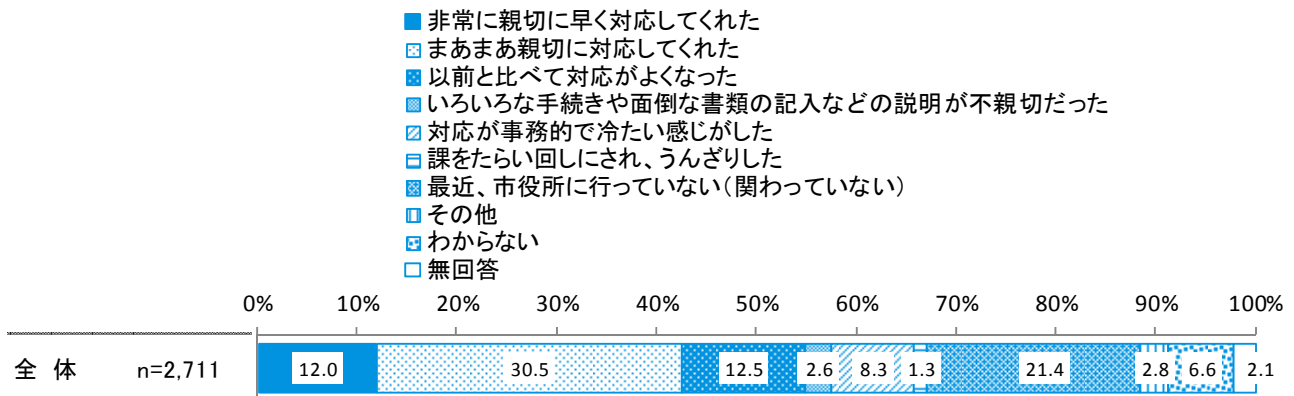
6 市の職員の対応への評価

問 24 あなたは最近、市の職員の対応についてどのように感じましたか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○印をつけてください。

◆ 市の職員の対応への評価は「まあまあ親切に対応してくれた」が30.5%

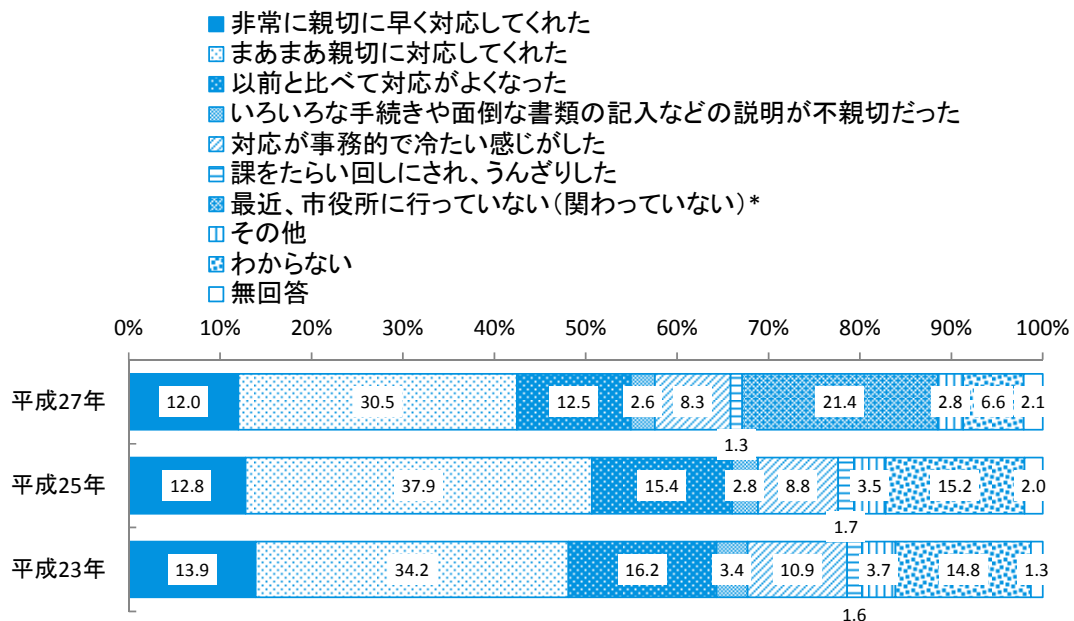
市の職員の対応への評価は「まあまあ親切に対応してくれた」(30.5%)が最も高く、次いで「最近、市役所に行っていない(関わっていない)」(21.4%)、「以前と比べて対応がよくなった」(12.5%)、「非常に親切に早く対応してくれた」(12.0%)、「対応が事務的で冷たい感じがした」(8.3%)の順となっている。【図表 57】

図表 57 市の職員の対応への評価



経年比較でみると、新規の項目である「最近、市役所に行っていない(関わっていない)」(21.4%)が約2割を占め、その他の項目では前回調査と比較して減少している。【図表 58】

図表 58 市の職員の対応への評価(経年比較)



*今回調査から、「最近、市役所に行っていない(関わっていない)」の選択肢を採用

7 合併の満足度

問 25 豊川市はこれまでに一宮町、音羽町、御津町及び小坂井町と三度の合併を行いました。合併後の施策について、合併前と比べて、あなたはどのような感想をお持ちですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○印をつけてください。

◆ 合併の満足度は“満足している”が24.8%、“不満である”が14.9%

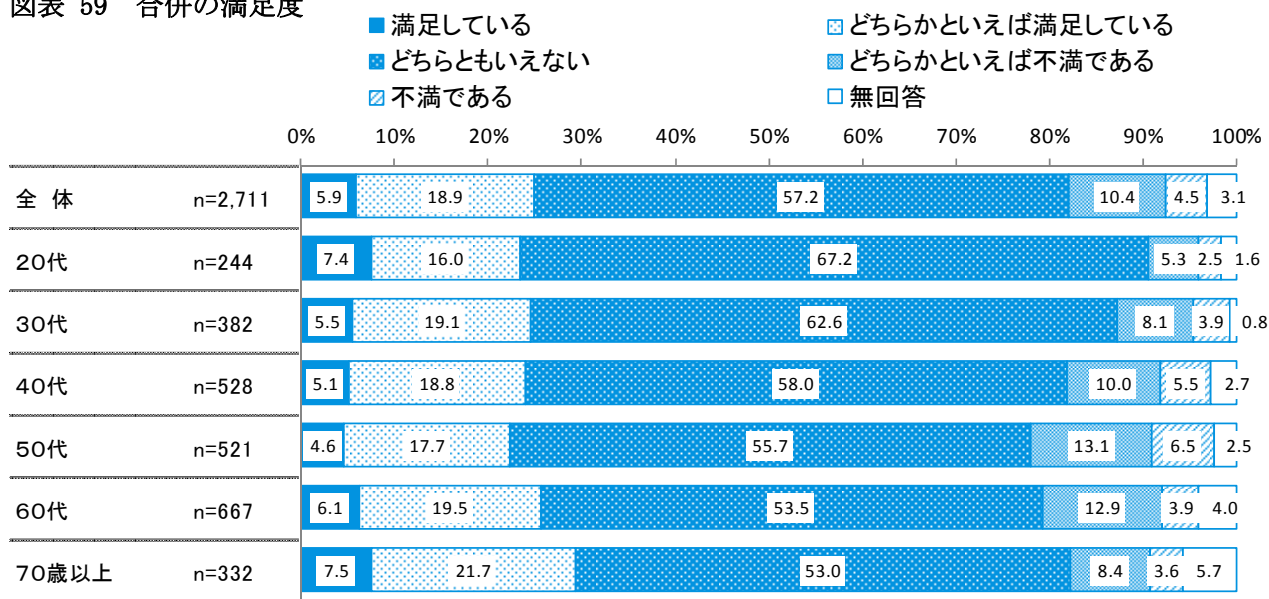
合併の満足度は「どちらともいえない」(57.2%)が最も高くなっており、「どちらかといえば満足している」(18.9%)と「満足している」(5.9%)をあわせた“満足している”が24.8%、「どちらかといえば不満である」(10.4%)と「不満である」(4.5%)をあわせた“不満である”が14.9%となっている。

年齢別で見ると、“満足している”は「70歳以上」(29.2%)でやや高く、“不満である”は「50代」(19.6%)でやや高くなっている。【図表 59】

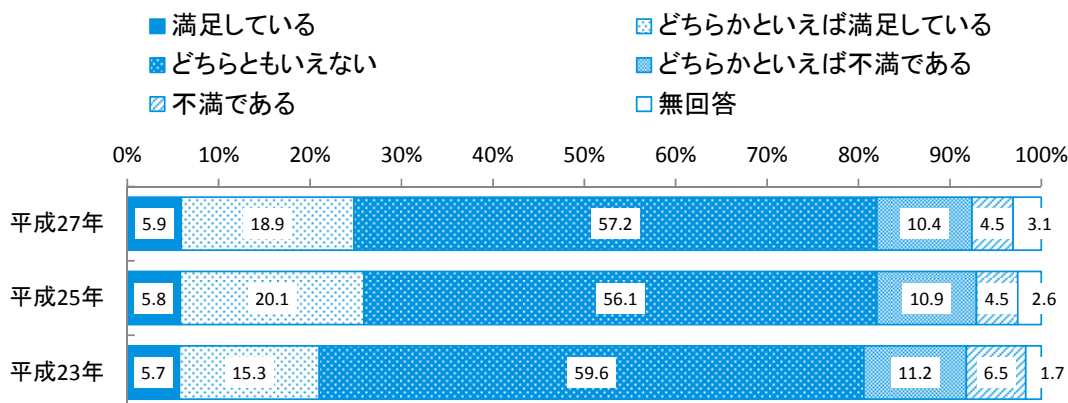
経年比較で見ると、大きな変化はみられない。【図表 60】

小学校区別で見ると、“不満である”では「御津北部小学校区」で42.6%、「御津南部小学校区」で39.7%となっており、旧御津町で割合が高くなっている。また、旧豊川市(6.2%)では1割以下であるのに対し、旧郡部(旧一宮町、旧音羽町、旧御津町、旧小坂井町)(32.5%)では3割以上となっている。【図表 61】

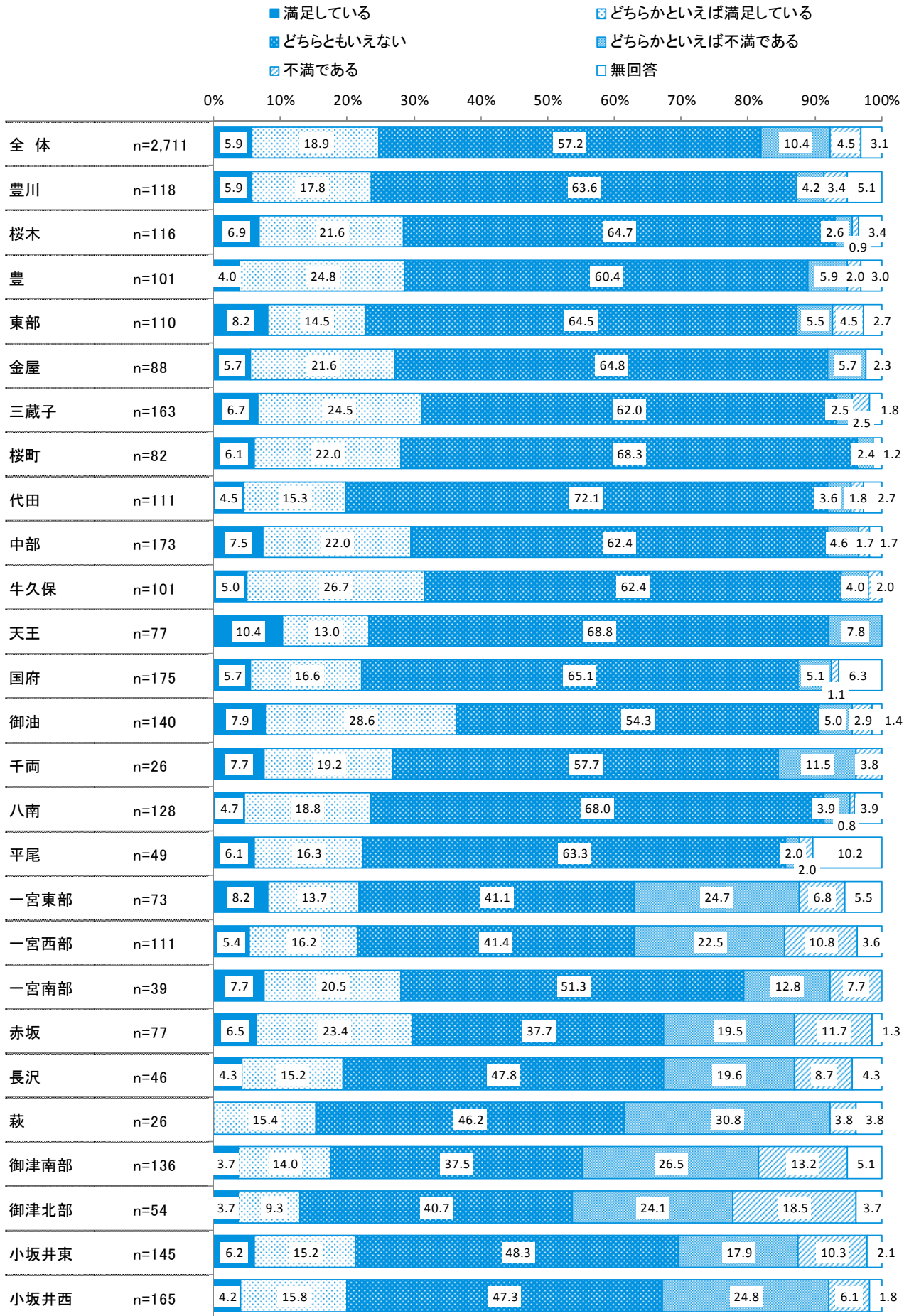
図表 59 合併の満足度



図表 60 合併の満足度（経年比較）



図表 61 合併の満足度（小学校区別）



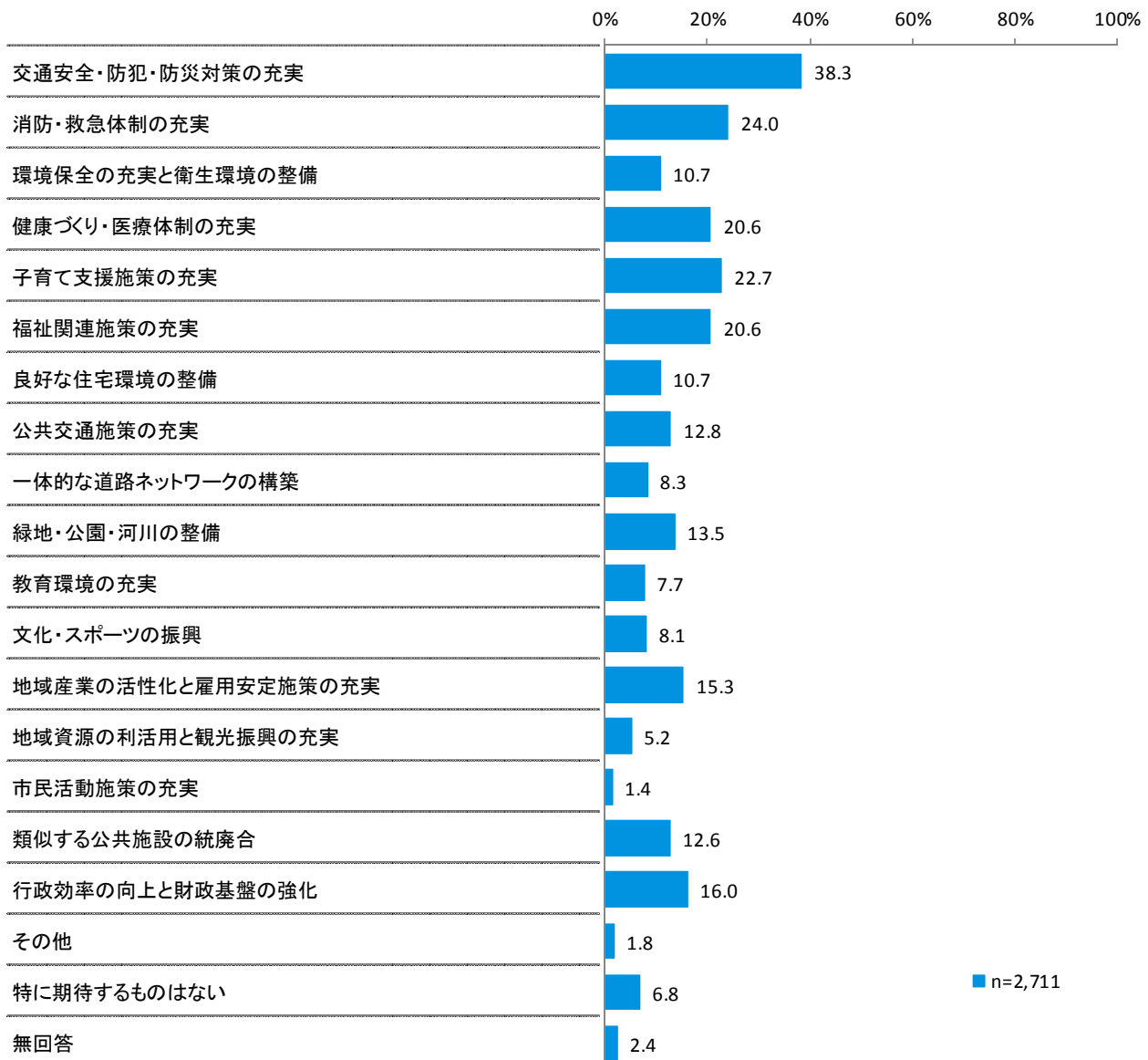
8 合併後の豊川市への期待

問 26 あなたは、合併により市域が広がった豊川市に何を期待していますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで○印をつけてください。

◆ 合併後の豊川市への期待は「交通安全・防犯・防災対策の充実」が38.3%

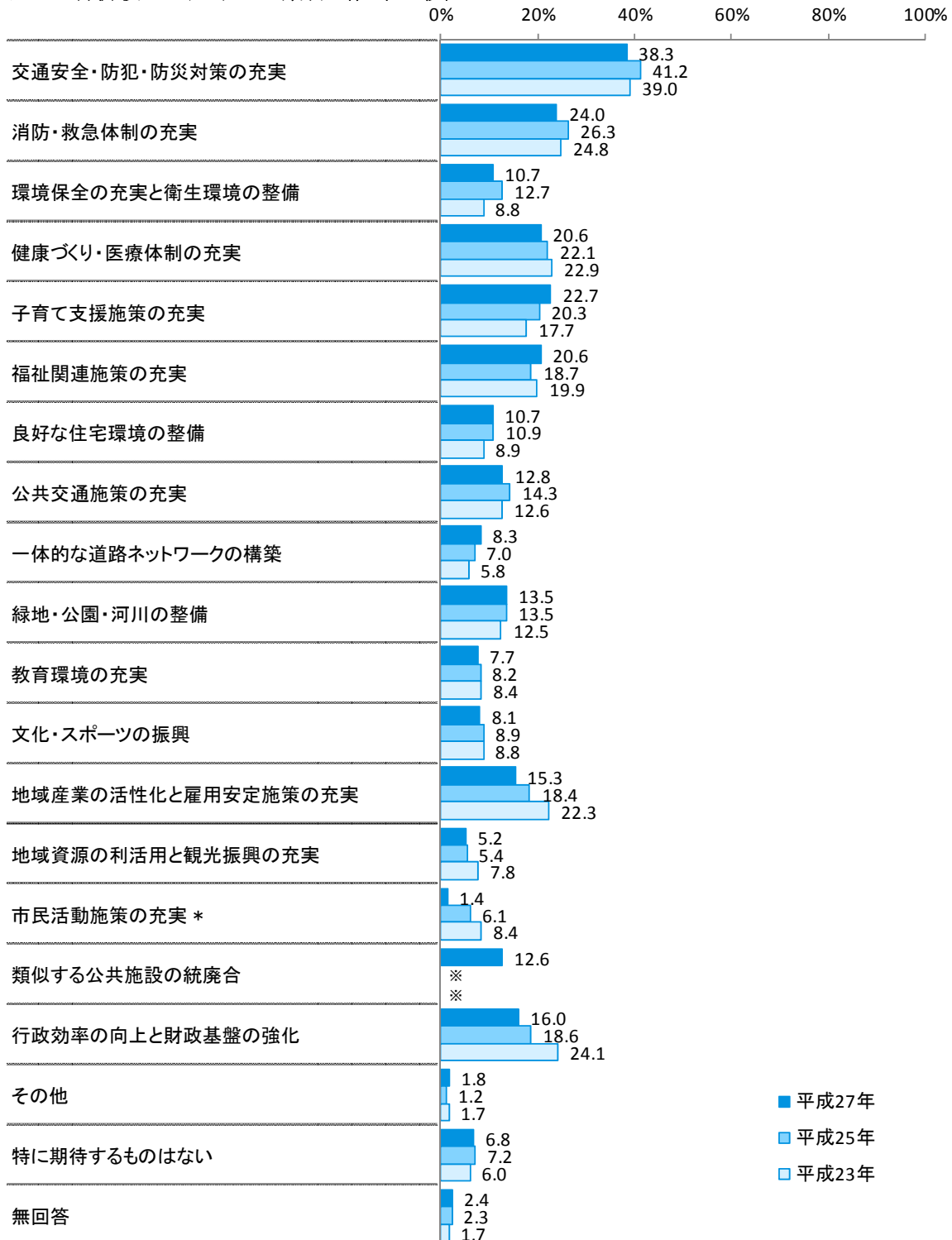
合併後の豊川市への期待は「交通安全・防犯・防災対策の充実」(38.3%)が最も高く、次いで「消防・救急体制の充実」(24.0%)、「子育て支援施策の充実」(22.7%)、「健康づくり・医療体制の充実」・「福祉関連施策の充実」(ともに20.6%)の順となっている。【図表 62】

図表 62 合併後の豊川市への期待



経年比較でみると、前回調査と比較して減少した項目は、「地域産業の活性化と雇用安定施策の充実」(3.1ポイント減)などとなっている。一方、前回調査と比較して大きく増加した項目はない。【図表 63】

図表 63 合併後の豊川市への期待（経年比較）



※調査項目に含まれず

*「市民活動施策の充実」は、前回「新市の一体感の醸成と市民活動施策の充実」と記載

第 11 回豊川市市民意識調査報告書 【概要版】

発行年月：平成 27 年 8 月

発 行：豊川市 企画部 秘書課 広報広聴係

豊川市諏訪 1-1

TEL：0533-89-2121

FAX：0533-89-2124

